



仲間が広がる



絆が深まる



Contents

- ③ ふくしまキッズの基本理念
- ④ ふくしまキッズ…希望の道へ
- ⑤ 支援委員からのメッセージ
- ⑥ ふくしまキッズ運営体制（2013年夏・冬、2014年春）
- ⑦ 2011～2013 ふくしまキッズ3年間のあゆみ
- ⑧ ふくしまキッズの三年を振り返って
～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～
- ⑯ ふくしまキッズ3年目を終えて
～ふくしまキッズ活動の変遷～
- ⑳ 2013年夏プログラム・ご支援いただいた皆様
- ㉑ 2013年夏プログラム・ご協力いただいた皆様
- ㉔ 2013年冬プログラム・ご支援いただいた皆様
- ㉕ 2013年冬プログラム・ご協力いただいた皆様
- ㉗ 2014ふくしまキッズ 春のプログラム 活動報告
- ㉙ 2014年春プログラム・ご支援いただいた皆様
- ㉚ 2014年春プログラム・ご協力いただいた皆様
- ㉛ 会計報告 春プログラム／2013ふくしまキッズ運営全体組織図
- ㉜ 年間収支報告
- ㉝ 支援金ご寄付のお願い



ふくしまキッズの基本理念

本プログラム（「ふくしまキッズ」）は、福島原発事故により深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校長期休暇期間に、放射能の心配をすることなく思いっきり遊び、子どもらしくのびのび過ごすことのできる環境を提供することを基本の目的としています。また同時に「ふくしまキッズ」の活動で子どもたちの「学びと育ち」を支援する各種教育事業を実施し、復興福島を担う人材を育成することを目的とします。

この事業計画にご賛同いただいた福島在住の保護者の方々のお子様たちを対象にし、基本的には希望者全員をお引き受けすることを原則とし、受入れについてはふくしまキッズ実行委員会での選考により決定いたします。

本プログラム実施にかかる諸経費は、全国の皆様からの支援金で賄います。こうして、多くの皆さまの支援のもと、本プログラムを継続的に実施することで、支援の輪を徐々に広めながら、「子どもを社会で育てる」という機運を高めていきたいと思います。

このように「ふくしまキッズ」の活動では、世界中の方々からこの活動をさせていただくために支援金を募集しておりますが、保護者の皆さまにも子どもたちの活動へ「参加費」としてご負担をお願いしております。(ただし、生活保護家庭は全額無償としております。)

事業実施にあたっては実行委員会が、本プログラムの活動趣旨に賛同した上で協力関係を築いていただける受け入れ地（受入協議会）と協働して運営します。



ふくしまキッズ実行委員会
委員長 進士 徹

1. 「2011年に5年間の活動宣言をして」

3年間よくここまで出来たな、これが正直な気持ちです。この2013年度活動報告書を目にされる皆様お一人、お一人に深い感謝の気持ちをお伝えしたい想いです。「ふくしまキッズ」にはこれまでに3,200人近くの福島の子どもたちが参加し、「心豊かに成長の階段を1歩・1歩上っている！！」、私はそう感じています。

2. 「実行委員の覚悟」

まさかの東日本大震災と2011年3月12日福島第1原発爆発事故。それまでは当たり前だった生活環境が一変してしまいました。私は、阿武隈山系の過疎地で小さな自然学校を運営していましたが、見えない放射線がどれほどの恐怖であったか、今でも忘れることはできません。「子どもたちからどんなことがあっても、笑顔を奪うようなことをしてはならない！！」、そうした想いが子どもを守り育てるという強い信念を奮い立たせ、震災前から築いてきた体験教育分野のネットワークを活用することで「ふくしまキッズ実行委員会」が動き出したわけです。動き始めた当初は様々な中傷もありました。でも怯みませんでした。

支援金は…子どもたちの受け入れ体制は…移動方法は…やるべき事が山積状態でした。

福島の保護者の民間自然学校への認知度はゼロに等しく、「そんな他人に我が子を預けて大丈夫か？」ということもあり、不安を抱えながらの「はじめの一歩」でした。受け入れ現場では言い尽くせないほどの混乱がありました。しかし、「動く事に大きな意義が有る」と思い、反省と改善を常にしながら3年間9回目の活動を終えるまでになりました。

3. 「子どもたちの成長と新たなつながり」

参加した子ども達が活動を終えるごとに、たくましく、優しく、気遣いも出来るようになり、それを保護者の皆さんのが肌で感じ取るほど成長し、保護者と実行委員会の信頼も徐々に強くなりました。受け入れ地域も北海道・大沼・夕張を中心に全道に広がりました。そして、岐阜県、長野県、神奈川県、京都府、兵庫県、愛媛県、長崎県、熊本県へとその連携の輪も広がりました。遠く離れてしまうと、福島の事はもはや忘れられているようになりましたが、受け入れた地域の人達

は常に心を寄せててくれています。

子どもは最初のころのような受け身的な参加から、徐々に自主的に自分が役に立つこと、人から喜ばれることを考えるようになり、行動に出せるまでになりました。そして「自分が大人になった時に、受け入れてくれた人達に恩返しをしたい」と心に誓っている子もいることは嬉しい限りです。

4. 「ふくしまメッセージ…参加する毎に手紙を記します。」

「ふくしまメッセージ」には家族揃って福島で生きる事を選択したこと、子育てのこと、放射線への不安のことなど言葉に出せない心の声が記されています。その「ふくしまメッセージ」も時間の経過とともに気持ちの変化などが伝わってきます。受け地の方々に読んで頂くことで、「継続して活動しなければ」という皆さんのが想いにつながっているのだと感じます。

5. 「プラスαな生きる希望」

作家の田口ランディさんが、「ふくしまキッズは、関わった人達みんなが幸せになる活動」と表現してくれました。子どもは勿論のこと。活動を受け入れる地域の人達にも活気が出てきました。地域によっては、今や「ふくしまキッズ」が年中行事になっているとのこと。生活をサポート役である多くの学生ボランティアさんにも、たくさんのかづきと学びの場になっているのです。

「ふくしまキッズ」の活動を重ねることで人々に明るさと、人のつながりが生まれ、子どもたちには「ふくしまキッズ」に参加することが福島で生きるパワーに直結しているようになっています。そうした中で「5年が終わった後は？」というお問い合わせもいただいております。その動きとして、東日本大震災復興支援財団の呼び掛けにより、福島の子どもたちがしっかりと育つ活動を継続するためのネットワークづくりとして「福島子ども力プロジェクト」が動き始めています。東日本大震災復興支援財団からは「ふくしまキッズ」の活動に大きなご支援を頂いていますが、ふくしまキッズの活動だけでなく、今後のこのプロジェクトにもご理解と心を寄せて頂き、引き続き応援をお願いいたします。

支援委員からのメッセージ



上智大学教授
藤田 保

発生から3年以上の月日を経て、世間の人々にとって東日本大震災と続く福島第一原発事故は過去の出来事になります。

つつありますが、実際はまさに進行中の出来事です。26万人以上の方々がいまだ避難生活を続けており、原発事故にまつわる不都合な事実もいろいろと明らかになってきています。そんな社会の中で、一人ひとりの大人ができるることを通じて、日本の未来の希望である子どもたちの健やかな成長を支えていこうではありませんか。



音楽評論家・作詞家
湯川 れい子

国内を旅することが多く、さまざまな機会に、まだわずか3年という歳月の中で、東日本の震災や原発事故が、忘れかけられていることを感じます。むしろ、毎日の暮らしに感じる不安や苦しさのほうが、重みを増してきているのかもしれません。

でも、決して忘れてはいけない、もっと重い現実があるのだと考えて、支援委員としての自分をふるい立たせています。子供たちの笑顔が、一番のエネルギー源です。



北海道公民館協会
事務局長
矢吹 俊男

あの日から早いもので3年が経過しました。この間、様々な機関・団体などが被災地復興に向けて取り組みをしてきました。

「ふくしまキッズ」も毎年春・夏・春とボランティアの皆さん、民間団体、企業、多くの方々の支援・協力により素晴らしい成果を残してきました。これからも「すべては子どもたちのために」、思い出に残る、未来に希望の持てる「ふくしまキッズ」をめざしましょう。



京都造形芸術大学教授
寺脇 研

ふくしまキッズと共に、北海道、高山、愛媛、熊本、長崎とプログラムに参加し、子どもたちやボランティアの学生と過ごしてきました。丸3年が経過して、プログラム自体も進化していますが、子どもたちの社会的成长、学生们の人間的成长もすばらしいものがあります。活動がこれだけ人を育てるのだということを、改めて痛感しました。ふくしまキッズは、わたしたち大人も含め関わるすべての者を成長させるのです。



作家
田口 ランディ

2011年、混乱のなか、短い準備期間で募集をかけ、ボランティアの方たちが結集して子供たちを夏の林間学校に連れて行ったあの年から4年。ふくしまキッズの活動は、当初は予想していなかった広がりを見せている。子供たちに長期間の自然体験学習を経験してもらい、その体験が心の成育にどのように影響するかという疫学的な調査が、この活動を通して可能になった。それにより、自然と触れ合うことが、いかに子供たちにとって重要かが、継続的なグループ調査によって証明された。これから、活動がふくしまを越えて、ジャパンキッズとして、受験教育に逆戻りしそうな日本の教育体制に一石を投じることを予感している。「5年間は絶対に続ける」と、当初から実行委員の皆さんは宣言していた。言うは易く行うは難し。多くの人たちの協力のもと、この活動が全国的な広がりを見せつつ、地域ごとに自主的に受け継がれていることに、新しいボランティアの形をかいま見る。より、包括的にふくしまキッズが次のステップに進むことを願い、今後も共に活動を続けていきたい。

ふくしまキッズ運営体制（2013年夏・冬、2014年春）

■実行委員会委員長

進士徹 NPO あぶくまエヌエスネット理事長 全体総括・福島県内プログラム受け入れ担当

■実行委員会副委員長

吉田博彦 NPO 教育支援協会代表理事 事務局長・支援金募集・渉外担当

■常任実行委員

宮本英樹	NPO ねおす理事	常任実行委員（2013年冬、2014年春）
安江こずゑ	NPO 教育支援協会北海道代表理事	常任実行委員（2013年冬、2014年春）

■実行委員

宮本英樹	NPO ねおす理事	北海道受け入れ担当（2013年夏）
安江こずゑ	NPO 教育支援協会北海道代表理事	事務局担当（2013年夏）
上田融	NPO ねおす理事	北海道受け入れ担当
青野信久	子どもの絆プロジェクト	愛媛受け入れ担当（2013年夏・冬）
芝野靖	NPO 教育支援協会長野代表理事	信州受け入れ担当（2013年夏）
石井英行	歩人クラブ事務局長	南会津受け入れ担当（2013年夏）
奥田宏明	NPO 教育支援協会横浜	横浜受け入れ担当（2013年冬）
村瀬容子	ホールアース自然学校	静岡受け入れ担当（2013年冬）
高橋忠明	NPO 教育支援協会東海チーフコーディネーター	岐阜受け入れ担当（2014年春）
藤原誉	KENN 関西自然教育ネットワーク運営委員	京都受け入れ担当（2014年春）
中井達也	新温泉町いなか体験協議会事務局	兵庫受け入れ担当（2014年春）
松永公隆	長崎純心大学教授	長崎受け入れ担当（2014年春）

■監査委員

金野栄太郎	公認会計士	会計管理・決算管理担当
立川直樹	あづさ監査法人	会計管理・決算管理担当（2013年夏）

■支援委員 50音順（敬称略）

遠藤和章	北海道公民館協会事務局長
玄侑宗久	作家・震災復興構想会議委員
ジョン・ギャスライト	中部大学教授・ツリークリミングジャパン代表
白石康次郎	海洋冒険家
田口ランディ	作家
寺脇研	京都造形芸術大学教授
戸塚隆	ジャーナリスト
中島岳志	北海道大学大学院法学研究科准教授
藤田保	上智大学教授
湯川れい子	音楽評論家・作詞家
吉田研作	上智大学教授

■特別賛同人 50音順（敬称略）

秋山豊寛	ジャーナリスト・宇宙飛行士・京都造形芸術大学教授
新井満	作家・作詞作曲家
鎌田實	医師・作家
小林武史	音楽家・ap bank 代表理事
坂本龍一	音楽家
辻井喬	詩人・作家（2013年夏）
西田敏行	俳優
日野原重明	聖路加国際病院理事長・日本音楽療法学会理事長
細川佳代子	NPO 勇気の翼インクルージョン2015 理事長・公益法人スペシャルオリンピック日本名誉会長
吉永小百合	俳優

2011～2013 ふくしまキッズ3年間のあゆみ

ふくしまキッズプログラム実施場所と参加人数 (2014年3月末まで)

		参加者数(名)	合計
ふくしまキッズ夏季林間学校	北海道	518	518
ふくしまキッズ 2011 冬	北海道	93	
	神奈川	76	190
	愛媛	21	
ふくしまキッズ 2012 春	北海道	28	
	三浦	32	130
	塩尻	32	
	飛騨高山	38	
ふくしまキッズ 2012 夏	北海道流山サマースクールコース	209	
	北海道全道体験キャンプ	185	
	福島	104	619
	愛媛	20	
	ぽんた山楽校夏合宿	101	
ふくしまキッズ 2012 冬	北海道大沼	77	
	北海道ゆうばりコース	47	
	福島	33	442
	横浜	64	
	愛媛	30	
	ぽんた山楽校(2013年9月～12月)	191	
ふくしまキッズ 2013 春	北海道大沼プログラム	61	
	ゆうばりプログラム in 三笠	16	
	飛騨高山	30	
	京都	36	281
	山陰・兵庫	17	
	長崎・小値賀	11	
	熊本	20	
	ぽんた山冬合宿	33	
	ぽんた山楽校(2013年1月～4月)	57	
ふくしまキッズ 2013 夏	北海道大沼滞在コース	125	
	北海道全道キャラバンコース	148	
	南会津	21	500
	信州木曽路	26	
	愛媛	25	
	あぶくま	54	
	ぽんた山楽校(2013年5月～7月)	101	
ふくしまキッズ 2013 冬	北海道大沼コース	83	
	北海道ゆうばりコース	34	
	あぶくま	21	312
	横浜	63	
	富士山	20	
	愛媛	20	
	ぽんた山楽校(2013年9月～12月)	71	
ふくしまキッズ 2014 春	北海道大沼コース	34	
	北海道ゆうばりコース	27	
	あぶくま	31	207
	飛騨高山	36	
	京都	40	
	兵庫・新温泉町	15	
	長崎	15	
	ぽんた山楽校(2014年1月～3月)	9	
	総合計 参加人数		3199

ふくしまキッズの三年を振り返って

～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

ふくしまキッズ実行委員会副委員長
NPO 法人教育支援協会代表理事 吉田博彦



1. 活動の原点：東日本大震災と原発事故の発生

「大変なことになった」、2011（平成23）年3月12日の福島第一原発一号機の爆発をテレビで目撃した時の衝撃は今でも忘れることができません。 Chernobyl の事故の時はリアルタイムでの絵面はなかったので、「ソ連という特殊な国でのできごと」ということで済ませていましたが、まさか同じことが日本で起こるとは……。前日の東日本大震災の時に覚えた恐怖とは違う、複雑な感情でした。

この後、何を考えていたのか、今となってはよく覚えていませんが、数日後、福島県鮫川村で「あぶくま自然学校」を運営している進士さんから連絡が入り、現地の状況を聞きました。彼は私が代表を務める教育支援協会の理事でもあり、これまで12年間、共に子どもたちの体験活動を作ってきた仲間でした。そこで、すぐに我々の本部がある横浜へ避難してくるように言ったのですが、進士さんからは「テレビの報道と違って自分の村は福島第一原発から60キロメートルも離れているためか誰も避難していない。大丈夫かもしれない」という話でしたので、とりあえず、次の週に私たちの本部がある横浜で会うことにしました。

その間にも東日本大震災の惨状が刻々と伝えられ、多くのNPOの若い指導者たちから被災地への支援活動の相談が舞い込みました。若い人たちの気持ちはよくわかったのですが、今回の大震災の支援活動は長期戦になると判断していましたから、「まず、最初に動くのは被災地支援をミッションとしているNPOが動

くはずだから社会教育系のNPOである我々は協力要請があればその支援を行い、自分たちのNPOのミッションを忘れることなく、慌てないで状況を良く見た方がいい。そのうちに必ず一人ひとりの出番が来る」と話していました。

確かにマスコミや現地に入ったNPOを通して伝えられる東日本大震災の被災地の状況は深刻なもので、自分たちも現地に行って何とかしたいという我々のNPOのスタッフやボランティアの想いを抑えるのが大変でした。しかし、福島第一原発の影響は関東地方、特に我々が拠点を置く横浜にも及ぶはずで、その対応をしないといけません。また、「さいたま市へ福島第一原発のある福島県双葉町の方々が避難してきているので、その子どもたちの学校を作りたい」という話が埼玉支部のメンバーから舞い込み、被災現地に入るのではなく、そうした自分の地元で起こる課題に対応することに全力を挙げる必要がありました。

その間も福島第一原発事故は確実に深刻さを増していました。3月末の私と進士さんとの話し合いの結論は、福島の子どもたちが全員疎開することになるだろう、その適地は北海道だ、そのため、北海道の教育支援協会や仲間のNPOに連絡をして、北海道教委にも協力していただき、福島の子どもたちの疎開場所の準備を進めることでした。そのため、進士さんが福島現地で福島県庁と、私は東京で文部科学省と、北海道の教育支援協会は道庁に働き掛け、協力して支援体制を作っていくことにしました。

ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

2. 「福島の子どもを守ろうプログラム」実行委員会 の発足

しかし、4月に入って我々の予測とは違って、福島の子どもたちを疎開させるという状況にはならなかつたのです。この3月から4月の間、私たちが進めていたのは関東地区の子どもたちを対象とし、米国のサマーキャンプをモデルにした夏休み長期林間学校計画でした。原発事故の影響すべての原発が止まっており、そのため夏には関東地区の節電対策は国家的課題となるはずで、2011年の前年と同様の猛暑を想定すれば、夏休みに関東地方の子どもたちがクーラーなしで過ごすことは難しい。そうした危機的な状況を迎える夏に備えて、夏休みに入った段階から関東の子どもたちを北海道に一時避難させる必要が出てくると考えていたからです。

そして、その林間学校を単なる避難に終わらせるのではなく、子どもたちの学びと育ちを支援する教育事業でなくては、福島原発事故という世界史的な課題を抱えてしまったこの国の復興にはつながりません。なぜなら、とんでもない状況に陥ったこの国の次の時代を担うのは子どもたちであり、多様な体験を通した身体的実感や他者とのコミュニケーションは、原発に象徴されるこれまでの競争的経済成長社会を卒業し、人と人が助け合う共生理念を基本としたこれからの中堅社会を担う子どもにはどうしても必要なものだと考えたからです。そして、今回の原発事故が我々の社会に大きなマイナスの影響をもたらすことは間違いありませんが、そのマイナスをプラスに転換するためにも、この夏は長期自然体験活動を作り出すチャンスと捉えたいと考えたからです。

こうした中で、進士さんと4月初旬に再度会うことになりました。目的は進士さん自身を避難させるためでした。進士さんは震災の前年の2010年に心臓の手術をしており、人工弁の心臓を抱えていながら、大変な状況の福島で生きていくのは難しいので、協会の専従職員となってもらい、東京へ転居させようとしていたのです。しかし、進士さんの口から出たのは「吉田さん、今計画が進んでいる夏の林間学校の計画をそのまま福島の子どもたちの支援に使ってほしい」ということでした。「自分の生活のこと、自分の心臓の状態のことはどうでもいいから、福島の子どもたちを守り

たい」と進士さんは言います。

その言葉に感動すると同時に、正直なところ、林間学校を行う資金の問題がすぐに頭に浮かびました。関東の子どもたちを対象に林間学校を実施するときには、各家庭に費用を負担していただく教育事業活動として考えていましたが、福島の子どもたちの支援活動となると、福島の保護者の皆さんにその費用を負担させるわけにはいかないため、この資金問題は高い壁でした。

しかし、「これは今回の原発事故に対する大人の責任としてやるしかない」というのが2人の間の暗黙の合意でした。そのため、すぐに北海道の仲間に連絡し、これまで自然体験活動の実施のために連携関係に



あった多くのNPOに協力を要請し、福島の子どもたちの支援活動に向けた組織体を作ることにしました。そのために、活動の目的、支援の方法、資金問題などの合意文書として組織規約と会計規則を作るとともに、具体的な体験活動計画の作成に入りました。

新しい組織体を作ることにしたのは、この事業が一つのNPOではとても扱いきれないほどの大事業となることもありましたが、最大の課題は寄付金の会計処理の問題でした。多額の寄付金を集めることができた時に、その寄付金が一つのNPOの収入としてその組織の「財布」に入ると、そのNPOの収入と混同され、その使途が不明になることを懸念したからです。そのため、新しい組織体を別に作り、会計を独立させ、す

ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～



べての経理書類を公開する必要がありました。その会計規則作りや会計処理については、日ごろからお世話になっていた会計士の金野先生と大手会計事務所の立川さんに協力を要請しました。お2人ともすぐに賛同していただき、すべて無償でお引き受けいただきました。(立川さんは昨年64歳の若さで亡くなられました。感謝するとともに、ご冥福をお祈りいたします。)

その結果としてできたのが「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会」です。その後、「福島の子どもを守ろう」というフレーズは反原発運動の象徴となってしまいましたので、2012年に名称を変更し、現在は「ふくしまキッズ実行委員会」となりました。「ふくしまキッズ」の活動は今回の原発事故に対する社会の責任としての活動で、できるだけ多くの方々に参加してもらうことを目的にしていますので、個人としての原発に対する考えは別にして、単なる反原発運動ではないということを明確にしたかったからです。

3. 「ふくしまキッズ」のスタート

2011年5月17日に最初の実行委員会を「ふくしまキッズ」の拠点と決めた北海道大沼で開催し、委員長にはこの活動の提案者であり、福島の子どもたちの支援活動ですから福島の方がなるべきだということから進士さんになってもらいました。ただ、進士さんの健康問題があるので、私が副委員長として事務局長を引き受け、事務局は教育支援協会に置くこととしました。当初、事務局オフィスを東京に置き活動を開始し

ましたが、「ふくしまキッズ」の活動に北海道庁が支援をしていただくことになり、その関係から教育支援協会北海道（札幌）に事務局を置きました。この後、全国に活動が広がって行きましたので、現在は教育支援協会の横浜に事務局を置いています。

この最初の実行委員会を開催する時までには、従来の自然体験事業を基に林間学校を開催する北海道の支援も北海道各地の自治体の協力の約束も取り付けられており、当初計画の受け入れ態勢もできあがっていました。しかし、最大の問題は何と言っても子どもたちの宿泊や活動の費用をどうするのかということでした。

通常の自然体験活動では1泊の活動に最低でも1人8,000円～9,000円ほどかかります。ふくしまキッズの活動は通常の3泊や4泊の自然体験活動と違い、1か月以上30泊以上の活動となりますし、福島から北海道までの交通費もかかります。寄付として支援金を集めるとても、多くの義援金が被災地に集まってしまった後で、この活動にどれだけのお金が集まるのか。この問題を前にして実行委員の皆が黙ってしまった時に、「まず200名の募集としよう。各引き受け団体には何とか1泊6,000円でやってもらい、全体で3,000万円ぐらいなら私の責任で何とかする。保護者にも交通費分の負担を求めて、大人たち全員が協力して子どもたちを守る、それがこの活動の基本だ」と提案し、実行委員（現在の常任委員）の皆も自分たちで責任を引き受ける覚悟を決めたことで活動はス

ふくしまキッズの三年を振り返って

～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

タートしました。

この時には今のように「ふくしまキッズ」の活動が全国に広がるとは予想していませんでしたので、実行委員は固定と考えていました。それが各季節ごとに全国で活動を担う団体が出てくれるようになりましたので、各団体ごとに実行委員を出していただくことになり、常任委員とプログラムごとに入れ替わる非常任委員という現在の制度としたのは2012年のことです。

4. 5年の活動期間の問題

この実行委員会では活動の期間を限定することが議論されました。災害支援であれば、どのような支援活動でも寄付金での支援活動は、ある段階で、必ず「活動終了」ということになるはずです。私の両親が阪神大震災の被害を受けた時に、日本にはまだNPOというものがなかったので、多くの海外のNPOが被災現地に入って活動を続けていましたが、私が両親の避難所で出会ったNPOの方々は口をそろえて支援計画を組む時に活動終了時期を決めていると言っていました。

こうした支援活動に対する長期的な視野はとても大切です。私は2000年におこった三宅島噴火による全島民避難の時に、三宅島の受験生等に対して無料で学習する場を提供する取組を行ったことがあります。その時は噴火事故からの島民避難が9月だったため、目の前の受験のことしか考えておらず、とりあえず支援活動を行いました。しかし、三宅島からの避難生活は数年に及ぶこととなり、2年目以降の受験生等への支援についての計画がなく、まだ私のNPOもできたらばかりで資金もなく、支援する人員、資金募集、連携体制等の見通しが不十分だったため、取組を中止せざるを得なかったという経験をしました。関係のできた方々から「我々は忘れられていくんですね」と言われた時は、本当に切ない思いをしました。

そうした経験から、「ふくしまキッズ」の活動を始めるのは良いが、この活動を成功させるためにも「活動終了」時期を決めるることは絶対に必要でした。その「時期」は「子どもたちの健康被害が出るかどうか」によって決めることにしました。

今回の大震災の災害発生直後にこの時期、マスコミだけではなく、ネット等で原発事故の放射能による子

どもたちへの健康被害の影響について色々な議論が出ていました。全く影響が無いという専門家の意見や甲状腺がんや白血病の被害がかなり出るという専門家の意見まで、まったく違った意見が専門家という方々から出されており、何を信じればいいのかが判断できない状況でしたが、ただ、共通していたのは「4年から5年で判る」ということでした。

そのため、「ふくしまキッズ」の活動は子どもたちの健康被害が判断できるという5年間やって、その時点で、もしも何も健康被害が出ないようであればハッピーエンドを迎えられるし、やはり健康被害が出たというのであれば、それはもう市民からの支援金で活動を行うのではなく、国が責任を持って行うべきものになるはずです。こうした議論を経て、「ふくしまキッズの活動は5年間継続し、その時点で終了する」ということを実行委員会の方針としました。

現在、活動開始から3年が経過し、4年目を迎えるとしていますが、正直なところ、最初の時点ではここまで活動が継続できるとは思ってもいませんでした。それはこの後に述べる資金問題がすべてです。現時点までに支援金の総合計は3億円を超えていて、本当に多くの方々からご支援をいただきており、それにお応えするためにも、よりよい活動を作り出すとともに、資金管理については万全を期す必要があります。

そのため、各季節の活動終了後には福島県をはじめ全国各地で活動報告会を実施し、その中で決算書や会計監査等の文書を支援者の方々や保護者の方々に配布



ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～



することで、会計の透明化を図ってきました。これは我々の最低限の義務であると思っていますが、こうした好意の資金にいつまでも頼っていることはできませんし、活動を担ってくれているNPOも本業があり、ボランティア事業をいつまでも続けるわけにはいきません。

この春の活動で活動開始から4年目に突入していますので、よく「ふくしまキッズの活動は5年間と聞いていますが、その後はどうのようにするのですか」という質問を受けるようになりました。この問題はこれから実行委員会で議論をしていくことになりますが、一番の問題は子どもたちの健康被害の状況がよくわからないということです。

福島県では県民の被ばく量評価と健康状態の把握、健康維持・増進を目的として、「県民健康管理調査」事業を2011年度から行っていて、その最新の調査結果が昨年秋に公表されました。その中で、2011年秋から2013年9月30日までに甲状腺検査を受診した子どものうち、甲状腺がんの悪性または悪性の疑いと診断された子が58人にのぼったことが報道されています。その58人のうち26人が手術を実施し、甲状腺がんと確定したということなのですが、その原因が原発事故の放射線の影響とは特定できないと調査委員会は言っており、マスコミも何も騒がないという状況です。実行委員会としてはこうした調査結果をにらみながら、今後の活動を考えていく必要があります。

5. 「希望者、すべてを引き受ける」という原則

スタートした支援金募集の活動は実行委員のこれまでの各界の方々との付き合いのおかげで、個人で100万円を寄附してくれる方や、全く見知らぬ方（後からわかったことですが普通のサラリーマンの方でした）から「福島にボランティアでは行けないけどお金で」と300万円が振り込まれるなど、本当に多くの方が支援金を振り込んでいただき支援金の募集は順調に進みました。

それに加えて、北海道現地での交渉を通して、北海道庁が子どもたちの往復の交通費を負担してくれることや、活動拠点とした北海道七飯町が宿泊費補助を出してくれるなど、多くの自治体が資金協力を申し出てくれました。この頃には「このままなら夏の資金は大丈夫だ」と実行委員会の誰もが安心していました。

ところが6月1日に参加者募集が始まると、大変な事態となってしまったのです。当初はホームページからの「先着順申し込み」だったために、募集を開始したとたんに参加希望者が殺到し、すぐに我々のサーバーがパンクしてしまったのです。「200名の枠で間に合うほど、福島の状況は簡単な状況ではない」とわかつてから、実行委員会のメンバーは連日のように電話やメールのやり取りをして、対策を検討しました。

その中でメンバー全員の意見は「今の福島の状況で運悪く抽選で落ちたとか、先着順で間に合わなかったとかいうのでは子どもたちに申し訳ないし、我々の責任を果たしたとは言えない。参加を希望するすべての

ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

「子どもたちを引き受ける」という1点で合意し、私のNPOが資金集めを行うことに集中し、福島の進士さんが現地の説明にあたり、北海道現地のNPOはできる限り多くの引き受け地を作ることに奔走しました。

このときに支援金の募集に力を発揮したのが支援委員の方々です。支援委員というのは支援金の募集に協力していただくためにお願いをした方々で、委員個人で寄附していただくだけでなく、支援委員のつながりで支援金を集めさせていただきました。

たとえば、支援委員で作家の田口ランディさんがご自分のツイッターで支援を呼び掛けたところソフトバンクの孫正義さんがそれに反応して、ソフトバンクが設立した東日本大震災復興支援財団から300万を寄付してくれました。東日本大震災復興支援財団はその後もふくしまキッズの活動の支援を継続していただき、その後は年間に2500万円の支援を続けていただいているます。

また、支援委員で作詞家の湯川れい子さんは外国人記者クラブでの記者会見をセットしてくれ、それが功を奏して、「ふくしまキッズ」の支援金募集に外国からも打診が来るようになり、湯川さんの紹介で米国に本部があるジャパンソサエティなどから多額の寄附が寄せられることが決まりました。海外に支援を求めるという発想をはじめ、玄侑宗久さんの繋がりで宗教団体などに協力を要請する、著名人の方に「特別賛同人になっていただけ」という広がりは支援委員の方々の

提案が無ければ出てこなかったものです。

こうして資金にもめどがつき始め、6月中旬になると、「ふくしまキッズ夏季林間学校」のことが新聞やテレビで報道され、それを見られた色々な団体から問い合わせが続き、我々以外の多くの団体が福島の子どもたちを全国各地で引き受けることを表明してくれるようになり、その情報をキャンセル待ちとなっているご家庭に流し、全国各地で福島の子どもたちの引き受けが進んでいきました。

ただ、引き受ける子どもたちの増員に次ぐ増員という体制であったため、活動が始まる直前の段階でようやく最終的な引き受け地が決まったという状況でした。そのため、参加する子どもたちにも、福島の保護者にも、子どもたちがどこで滞在するのかという情報はしっかりと伝わっていました。そうした混乱の中で7月25日の出発日は来てしまったのですが、何とか最終的には名簿に残っていたすべての子ども、518人を引き受けることができたのです。

6. 引き受け地に活力という予想しなかった効果

出発日当日、郡山駅と福島駅に集合した子どもたちを、こうした活動にはじめて参加する東京の大学生を中心とするボランティアと東京のNPOのスタッフが新幹線で新青森駅を経由して北海道函館駅まで列車で、そこから先はバスで、七飯町大沼の活動拠点に子どもたちを引率しました。そして、現地集合後、大沼でチーム作りを終えた子どもたちから順次、北海道の



ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

NPO のスタッフがリーダーとなり、北海道各地の 15 の引き受け拠点へ列車で引率しました。

この移動が大変で、根室や稚内という遠い引き受け拠点までは大沼から約 500km ですから、子どもたちに負担がないように、JR 北海道にお願いして椅子席のない「お座敷列車」に大沼で夜に乗り込み、朝起きたら現地到着ということにしました。

問題は移動だけではありません。「ふくしまキッズ」の活動には多くの方が参加されていますので、この最初の年の夏の活動にも 20 を超える NPO や団体が参加しており、各 NPO や団体間の連携が最も重要なファクターでした。そこには団体同志の意見対立も多くありました。各団体にはそれぞれの考え方があって、

自然体験活動に対する基本的な考え方や、組織活動の文化も違い、各地域の自治体との関係も違いますから、当然のことです。にもかかわらず連携協力がスムーズに行ったのは、何と言っても「子どもたちを守りたい」という想いがお互いに強くあったことが大きく、加えて活動の最初に作った規約が相互に合意されていたこととも功を奏しました。

そして、それら以上に大きかったのは、最初の年に子どもたちを引き受けてくれた北海道各地の地域社会が「福島の子どもたちを引き受けることによって元気になった」という成果がすぐに現れたことが挙げられます。例えば、160 世帯、住民約 330 人の小さな漁村、松前町の西の端の原口地域に子どもたちを引き受けもらった時のことです。この町に子どもたち約 30 人が 5 日間滞在したのですが、町に子どもの歓声が響きわたると、地域の人たちの顔に喜びがあふれました。

それは松前だけではありませんでした。弟子屈、むかわ、下川など道内各地を旅した子どもたちは行く先々で温かく迎えられ、その土地でしかできない経験を重ねるとともに、そうした地域は少子高齢化が進む地域であるため、迎えられた子どもの笑顔がその地域の大人たちに活力を与えたのです。最大拠点となった七飯町大沼地区では、子どもたちを喜ばせようと、十数年前に姿を消した盆踊りを復活させるために地元有志が協力して準備に汗を流したこと、長く途絶えていた昔ながらの地域の絆や協力関係が復活し、福島の子どもたちが帰った後で、住民から盆踊りの継続を望む声が町役場に多く届けられたということです。

このことは今回の活動の中で予想外の大きな力となりました。東日本大震災と原発事故という未曾有の災害、悲しみが「ふくしまキッズ」事業のきっかけとなったことは間違いありませんが、子どもたちの笑顔の輝きは、道内各地の人たちの人々の気持ちを結びつける確かな絆となったのです。

福島に帰った子どもたちの大きな変化も「予想しなかった効果」の一つです。自然体験活動が青少年の自立力の育成に効果があることは、色々な調査で以前から証明されていたことですが、「ふくしまキッズ」での利他的精神の育成にこれだけ効果があることは驚きました。私たちは「人の世話になるな」と子どもたち



ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～



によくいいますが、「ふくしまキッズ」に参加した子どもたちはホーム・ステイなどで「他人の飯を食う」という体験をし、多くの方々に世話になることで、自分も人のために何かをしたいと思うようになったのです。

日本での自然体験活動は2泊から3泊ほどの活動が主流ですから、「ふくしまキッズ」のように一ヵ月に及ぶ宿泊体験活動はありません。また、日本での自然体験活動のほとんどがテントや宿泊施設での集団生活ですが、「ふくしまキッズ」ではホーム・ステイなど地域の人々との交流が多くあります。このことが利他的精神の育成に効果をあげているのです。

このホーム・ステイも実は苦肉の策でした。最初は北海道大沼の宿泊施設すべての子どもを収容する予定でしたが、前にも述べたように参加希望者が急増しましたので、夏場の北海道ですから宿泊場所が足りなくなってしまい、やむを得ずホーム・ステイをお願いすることにしたのです。このことは我々にも大きな学びになりました。

7. 2011年から2013年までの流れ

最初の年の夏の活動は8月末に終了し、その後、2011年の冬の活動（北海道・神奈川・愛媛）、春の活動（北海道・神奈川・長野・岐阜）と続きました。この年の冬の活動に手を挙げてくれた愛媛県の団体は今治市の桜井公民館を中心とする公民館職員の方々で作る任意団体で、この方々は、この冬は仕事としてで

はなく年休を取って活動を作り出してくれました。この冬の愛媛でも夏の北海道と同じように地域の人々の協力関係の復活や子どもたちの利他精神の育成のことが報告されました。

結局、我々の社会は、東日本震災の前に出現した「無縁社会」という言葉が示すように、人と人が協力することが少なくなっていることが最大の問題で、春の活動を引き受けてくれた教育支援協会の仲間も長野県塩尻市と、岐阜県高山市にそのことを訴えて、自治体の協力を取り付け、引き受け体制を作り出してくれました。

こうした活動成果を基に、北海道だけに負担をかけないために、「ふくしまキッズ」の活動を全国に広げようということで、2011年度の活動報告会を東本願寺の協力を得て京都で開催し、西日本への協力要請を行いました。この段階で「ふくしまキッズ」の活動は単なる福島の子どもたちの保養という活動ではなく、子どもたちの学びと地域活性化に重点を置いて活動を作り出すことになりました。

2012年に入って夏の活動は北海道を中心に行いましたが、愛媛も冬に続いて活動を引き受けてくれ、「遠くにやるのは心配だから、近くでやってほしい」という保護者の要望を受けて、進士さんの地元の福島県鮫川村で活動を作り出しました。

これに対しては「なぜ危険なのに福島でやるのか」という指摘もありましたが、「ふくしまキッズ」の活動はあくまでも保護者の要望を基本にしており、選択

ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～



肢を多くすることが大切なこと、そして、福島の子どもたちの単なる保養という活動ではなく、子どもたちの学びと地域活性化を目的としていることで了解をいただきました。

この年は冬の活動（北海道・神奈川・愛媛）に続いて、春の活動では昨年の北海道や岐阜とともに、京都、兵庫、長崎、熊本が引き受け地となりました。これは2011年度の報告会を京都で行った効果で、兵庫の引き受けを決めてくれた新温泉町の町長がその報告会に来ていただいており、町として引き受けを決めてくれたということです。

2013年はこうした活動に磨きがかかる年でした。各季節とも活動拠点はほとんど変わることなく、北海道での活動はそれまでに子どもたちを受け入れた北海道内の自治体から「ぜひ継続して開催してほしい」という要望が出るようになり、自治体同士の受け入れの連携も進みました。

活動内容にも大きな変化が出てきました。最初の年は通常の体験活動をモデルとしたため、どうしても活動プログラムを詰め込み過ぎたという反省から、その前年の反省を基に活動を磨き上げ、子どもたち同士の関わりを深めるためのプログラムを増やし、フィールドトリップという子どもたちが自分たちで旅行の計画を立て、自分の力で旅に出るという企画などができるようになりました。こうした活動は長期の宿泊を伴う体験活動でなくてはできないものです。

こうした活動成果は各地の活動の指針ともなり、こ

の年に初めて活動に参加した夏の活動地の長野県木曽福島地域の方々や春の長崎県の長崎純心大学の方々にもその活動方針を基に活動が作り出されるようになりました。

8. 真の「復興」に向けた活動を作り出す2年

こうして「ふくしまキッズ」の活動は全国へと広がっており、福島の皆さんにお約束した「5年の活動」に向か、あと2年の活動を何としても作り出さなくてはなりません。そのため支援者の方々には再度お願いをし、「ふくしまキッズ」の活動の目的をもっと明確にしていかなくてはいけないと思います。それは「子どもたちの保養」をおろそかにするのではありません。それを踏まえながらもそこに重点を置くのではなく、子どもたちの学びと地域活性化に重点を置いた活動にしていくことです。そして、福島の復興に向けた教育事業として「ふくしまキッズ」の活動を確立することにあります。

「教育」というとすぐに子どもの問題、学校の問題、子どもをどうするのかと考えがちですが、それは大いなる勘違いで、復興に向けた教育は子どもの問題ではなく、大人の問題なのです。その意味で、復興教育としての「ふくしまキッズ」は福島の子どもたちの笑顔と元気にはげまされ、自分の立場や都合を言い立てるのではなく、自分たちの社会に責任を持つ大人を作ること、それを最大の目的として活動を続けていくつもりです。

ふくしまキッズの三年を振り返って ～活動の原点と経緯、そしてこれからの活動～

前にも述べたように、結局、我々の社会は、東日本大震災の前に出現した「無縁社会」という言葉が示すように、人と人が協力することが少なくなっていることが最大の問題で、「復興教育」の最大のテーマはそこにあるように思います。

このことは「ふくしまキッズ」の活動に参加してくれている多くの学生ボランティアやその地域をよく知っている地元の人たちがボランティアの方々の中に「答」があると思います。そして、そうしたボランティアに出番と居場所を提供した「ふくしまキッズ」の活動にかかわる多くのNPO、公的機関、自治体、大学、企業等などの存在が「答」になるはずです。

当初、「ふくしまキッズ」の活動に関わった自然体験を専門とするNPO同士が、具体的なプログラムを作成したり、スタッフの関わり方を考えたりする際に、自然体験に対する各団体それぞれの思いや手法があり、目的と手段の共有化を図ることが難しかったというがありました。ある会場では許されたことが、別会場では認められない等、子どもたちがとまどうこともありました。

自治体との関係でも色々とありました。たとえば、福島県庁との協力関係についても、当初は「福島の子どもを県外に出すというのは、福島県が危険だということを認めることだ」と協力を断られたことがあります。しかし、それを克服できたのはそこで対立しなかったことです。福島県という自治体の立場からすればそれは一つの判断なのです。

しかし、活動を継続するなかで、ふくしまキッズ実行委員会の方針を示し、具体的な「ふくしまキッズ」の活動を報告していく中で、子どもたちのために何が必要かということの共通理解を図ることができました。そして、福島県庁の担当者から「この活動があるおかげで福島県に住むことができるという保護者も多い」と助成金をいただけるようになり、福島県庁を通して厚生労働大臣の感謝状をいただきました。

人が人と協力する、助け合う、感謝する、こうした中から福島の復興は見えてくると思いますし、何より、それを体現できる子どもたちが「ふくしまキッズ」の活動を通して確実に育っているという実感があります。ふくしまキッズのあと2年、なんとかそれをもっと磨きあげていきたいと思っています。



ふくしまキッズ3年目を終えて

～ふくしまキッズ活動の変遷～

NPO 法人ねおす理事
上田 融

「ウエダさん、今立て込んでいるので、あとで電話します。くううう」

2011年7月、その時、ぼくは北海道むかわ町穂別にいました。子どもたちを受け入れるべく突貫で準備を進め、さあ当日にはなってみたものの、なんとまだ名簿が届かない！そこで事務局に電話をしてみたら、そんな風に電話が切れました。そう、子どもが到着するその日まで、一体どんな子が来るのかわからない、バスから降りてくる子どもたちを一人ずつ数えて、そこで初めて受け入れ人数がわかる、というすごい状態で全道キャラバンコースが始まったのです。さっきの電話の最後の「くううう」は、まさにうめき声。当時の大沼の事務局がいかに大変であったか…。今でもその声が耳に残っています。

そんな状況で、北海道に来た子どもたち。

一見、普通の子どもです。でも、何かが違う。ぼく、こういう活動長いことやってきたんだけど、なんだろう、この肌に感じるこの違和感は。例えば外の芝生に連れて行った瞬間に、なんとも表現しにくい動きをしながら、叫び、飛び跳ねてる。なんとも表現しようがない、異様な雰囲気を感じずにはいられませんでした。

そして、そんな子どもたちを受け入れるべく、全国から集まったスタッフ。

お互い、どこの誰かもわからない。どんな思いでやってきたのかも分からぬし、事が事なだけに、みんな「一家言」持ってる。だから、ミーティングはいつも紛糾。やらなければならぬという気持ちだけが強すぎて、思いが伝わらない、相手を理解できない。それぞれがそれぞれの活動経験から築き上げてきたプレイスタイルがある。理念がかみ合わない。議論という名の言い争い、喧嘩。自分の価値観や経験が音を立てて崩れしていく…。

正直、第1回のことのはんまり思い出したくない、というところでしょうか。まさに誰も信じられなくなるような修羅場でした。しかし、その修羅場こそが今のふくしまキッズの原点であり、そこから「次」が生まれ、「今」に至ったと思っています。そのプロセスを記してみます。

まず、ふくしまキッズは、とにかく、「普通の夏休み・長期休み」でなければなりません。なので、回を重ね

るごとに、「みんなであれをやります」「今度はこれをやります」という提供型の活動（アクティビティ）を極力減らすようになりました。最初はとにかく「アクティビティ」が多く、何かを提供しなければならない、という意識が強かったです。それが必ずしも悪いわけではないのですが、冷静に考えれば、毎日大人がアレコレ活動を提供してくれる夏休みは普通ではありませんし、持続的ではありません。極端に言えば、夏休みは実は「ヒマ」であり、その「ヒマ」を自分の力でどうにかして楽しいものにするのが「夏休み」なのです。だからといって、スタッフは「何も提供しなくても良くなって、ヒマだ」ということはなく、どうやったらむしろ子どもたちが自発的に、勝手かつ安全に遊び始められる場と空間を仕込むことができるか、に心血を注ぎます。適度なところに、ロープをぶら下げておいたり、丸太を転がしておいたり。足元にはウッドチップを敷き詰めたり、芝生の上にボールを転がしておいたり。与えるよりも、引き出す、待つ。そんな「学びの導線」を敷くのが、ディレクターの仕事です。

そんな場において、子どもたちが生み出す創造性にさらに刺激を与えるのが、「学生ボランティア（カウンセラー）」です。子どもより少しだけ人生経験のある、学生ボランティア。近所のお兄さん、お姉さん的存在として、子どもと一緒にその空間を過ごすことで、子どもたちの創造性をさらに引き立てます。つまり、大人自身にも、そんな何もない状況の中から遊びを生み出し、子どもと楽しむことができる「創造性」が求められます。これ、意外と若いボランティアスタッフには難しいようです。どれだけレクリエーションのネタをもっているか、よりも、その場でどれだけ面白い遊びを生み出せるか、子どもの創造性に付き合いきれるか、という能力が求められるので、慣れない学生さんはよく「何していいかわかんない」と棒立ちになってしまいます。

さらに、その創造性を次のステージへと展開させる場として、「地域の方との出会い」というイベントを仕掛けます。夏休みで言うところの「たまのお出かけ」ですね。民泊プログラムでは、突然出会うホストファミリーの方々と、どうやったらうまく生活できるのか。フィールドトリップでは突然切符を渡され、自分で旅

ふくしまキッズ3年目を終えて

～ふくしまキッズ活動の変遷～

をして「あそこに泊まってこい」と言われたとき、どうしたらうまく宿までたどり着けるのか。子どもたちが、その課題を「どうにかする」瞬間を、周りの大人はひたすら待つような関わりを、地域の方にはお願ひしています。まあ、大抵は大人の方が我慢できずに「ああしろ」「こうしろ」と言ってしまうのですけどね。

このように、当初は「避難・保養」的視点から始まったふくしまキッズは、さらに意義深いものにするために、徐々に「教育」の価値にこだわった活動にシフトしていきました。特に、大人が一方的に「教える」「やらせる」という詰め込み型ではなく、「勝手に学ぶ」「待つ」「気づかせる」「自分で解決する」という、内発的な動機を重要視したプログラム構成、そして関わる学生や大人たちにも学びや気づきがもたらされるよう

場と機会を確保し続けたことが、様々な「次」を生み出して来た様な気がしています。

…と、こうやって書くと、とても崇高なことをやっているような気がしますが、これらはもともと日本の各地域で普通に行われていた社会教育の手法です。そして、「原発」という事故は、誰でもどこでも普通にできていたことを、まさに冒頭のエピソードのように、マヒさせてしまいました。しかし、だからこそ、普通になされていた社会教育の大切さが再評価され、強固な手法として再構築できたのかもしれません。

確かにきっかけは不幸だったかもしれないけど、そのおかげでふくしまキッズが生まれ、そのおかげで日本を再構築する人材が、町が生まれた、そんな未来につながってくれたらと思っています。



2013年夏プログラム・ご支援いただいた皆様

特別支援団体



みんなで がんばろう ● 日本
公益財団法人東日本大震災復興支援財団



07 ジリツエン
7/14 J-SHINE イーオン講座参加者
7/20 J-SHINE イーオン講座参加者
ACTION MOM CHINA ※
GATE
Gesangsstudio Wandsbek
GambarreNippon Hamburg
Global Giving
Nancy Batten
Brian Morearty
Mary Lee Sharp
Edye Kamensky ※
Japanse Summer Camp
VW Families
浅岡 弓布子
アチャカフエシナガワマナミ
アベユミコ
有木 達也
安藤 敦子
イケガミマサユキ
石川 紀子
イズミタンダンダイドウソウセ
伊丹 千晶
市川 信義
稻葉 久仁子
岩本 彩子
植月 均
エヌピーオウホウジンジュウ
NPO 教育支援協会北海道
遠藤 真澄
エンドウヒロコ
オウエンダンオオタ
オオタキアケミ
オオユアケミ
オケモトスミコ
小関 悅子
オンドカツミ
カケヒュカリ
株式会社教育測定研究所所有志
カブシキガイシャナゴミ
上村 悅子
川嶋 登千代
川田 剛
川原田 耕基
カ) ヴァリューワールド
久保 真寿美
熊倉 強
原岡 百合子
公益財団法人 上廣倫理財団
公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
高校生ボランティア団体 co-Act
コタニアヤコ
コバヤシクミエイカイワキヨウシツノコドモタチ
コバヤシタケシ / チカコ
コマサカズヒコ
小柳 晶嗣
齋藤 由佳
酒向 雄介
サソウカズコ
佐野 由貴
サノクミコ
ジブラルタセイメイホケン (カ
Japanese Community Association Inc.
シャ) ニホンエンパワーメ

シラネトチタテモノ (ユ
セキネアツシ
曾田 美也
園田 季一※
高橋 和夫
竹内 茂代
タニノヤシ
たまきはる福島基金
土田 菜摘
ツリークライミングジャパン
トクヒ) ティーンズポスト
匿名希望※
トダサワミネコ※
富岡 真美
巴鷹の会
中川 信緒
中島 枝美子
ナカジマトシコ
ナカノノリヒト
ナカハタミヨコ
中山 創太
南部 達夫
ニジイロヤビートンウラカミ
ニシタニユズル
ニツテツスマキンコウハンロウソ
ハコダテショウニカイカイカイ
ハットリカズノリ
ハマダアイコ
ハラダコウジ※
ひまわりプロジェクト
ヒラサワユウコ
ヒラヤマイワオ※
フカザワジュンイチ
福山 光広
フジゼロックスフクシマ (カ
堀野 美夏
ホリノノブオ
政田 浩江
マツイサトミ
マツカヨウコ
ミキセツコ
三谷 亜矢
ミツハシケイコ
ミドリカワヒロユキ・アヤ
南 律雄
宮野 稔
モチヅキノリコ※
守屋 真弓
ヤシマショウテン
ヤフービジネスサービス※
ヤフー (カ)※
ヤマダリズム
ユ) ヴエール
ユ) セイントアロー※
吉元 章雄
ルーチェヘアデザイン
ワタナベユリ

■あぶくま
大橋美可恵
■信州木曾
ふるさと体験館きそふくしま (募金)
芝野碧
■七飯町
七飯町
佐竹 加代子
吉原 志津子
■滝上町
童話村たきのうえ夏に恋まつり実行委員会
会場食事代
童話村たきのうえ夏に恋まつり実行委員会
チャリティーカラオケ義援金
北海道広域避難アシスト協議会
■留萌市
東日本大震災被災者受入プロジェクト協
議会
■下川町
滝ヶ平一司
■栗山町
公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境
財団
北海道コカ・コーラボトリング株式会社
北海道
北海道広域避難アシスト協議会
栗山村
泉晴夫
泉真沙子
泉幸子
募金箱
■むかわ町
匿名 (苫小牧市)
■東川町
北海道広域避難アシスト協議会
■留萌市
東日本大震災被災者受入プロジェクト
協議会
■ゆうぱり
北海道教育大学岩見沢校教職員組合
北海道教育大学岩見沢校同窓会
北海道教育大学岩見沢校アウトドア・ライフ
専攻
北海道広域避難アシスト協議会
■橋津町
北海道広域避難アシスト協議会
■愛媛
麟知厨
タマイトイツイグ
ササキスズコ
今治市 PTA 連合会
ヤマモトリエ
桜井婦人会
高松善雄
タナカケンジ
ヤマモトユウコ

50 音順
期間：平成 25 年 5 月 1 日～8 月 31 日
※は複数回ご支援頂きました方

参加した子どもからご支援いただいたみなさまに、感謝のお手紙を差し上げたいと
思います
ご支援いただいた方のご住所をお知らせください

2013年夏プログラム・ご協力いただいた皆様

ななえ 七飯町

東大沼小学校	施設無料開放、テント・イス・机貸与
東大沼町内会	施設無料開放
沼っこふるさと実行委員会	ふくしまキッズ盆踊り大会開催
大沼婦人会館	施設無料貸与（宿泊室）
工藤 久己（個人）	コンサート実演
森町商工会議所	受入手配支援
濁川活性化委員会	受入手配支援
清和の丘クラブ会長 笠間昭三	受入手配支援
厚沢部ふくしまキッズ実行委員会	フィールドトリップ協力
江差町子どもの健康を守り隊	フィールドトリップ協力
せたなサマースクール実行委員会	フィールドトリップ協力
せたな町教育委員会	フィールドトリップ協力
北檜山町農業協働組合	フィールドトリップ協力
新はこだて農業協働組合若松基幹支店	フィールドトリップ協力
ひやま農業協働組合瀬棚支所	フィールドトリップ協力
ひやま漁業協働組合大成支所	フィールドトリップ協力
せたな商工会	フィールドトリップ協力
せたな観光協会	フィールドトリップ協力
せたな海洋クラブ指導者会	マリーンスポーツ指導
なな実	フィールドトリップ協力
檜山振興局森林室	フィールドトリップ協力
檜山北部地区水産技術普及指導所	フィールドトリップ協力
檜山農業改良普及センター	フィールドトリップ協力
檜山北部支所	フィールドトリップ協力
玉川小学校	フィールドトリップ協力
若松小学校	フィールドトリップ協力
松前町教育委員会	フィールドトリップ協力
松前町ツーリズム推進協議会	フィールドトリップ協力
原口交流の里づくりの会	フィールドトリップ協力
南北海道グリーン・ツーリズム運営連合会	フィールドトリップ協力
NPO 法人ねおす	運営協力
NPO 法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター	運営協力
大沼グリーン・ツーリズム推進協議会	運営協力
一般社団法人子どものチカラ研究所	運営協力
大沼ふるさとの森自然学校	運営協力
北海道教育大学	ボランティアスタッフ派遣
NPO法人ezorock	ボランティアスタッフ派遣
はごろもフーズ株式会社	シーチキン 3kg パック×4袋×2箱
株式会社サッポロビール	飲料提供
アグリネットななえ	食材提供
濱田順子	図書提供
村上嘉子	食材提供
函館中央病院 山田豊	食材支援
株式会社函館酪農公社 加藤哲也	食材支援
株式会社シータス＆ゼネラルプレス	食材支援
松田真枝	運営協力
八島商店 大島智子	食材支援
北海道旅客鉄道株式会社	施設提供
株式会社アイマトン 黒島俊也	食材支援
株式会社オンザウェイ	トランシーバーレンタル
ゴッソ株式会社 宿田牧夫	企業コーディネート
新札幌乳業株式会社	牛乳、チーズ、生クリーム
株式会社エヌ・ハーベスト 鈴木英俊	スパイス、はちみつ、ドライフルーツ
株式会社だるま食品本舗 工藤哲也	しらたき、納豆
カゴメ株式会社北海道支店	トマトスープ、ジュース
株式会社バリラジャパン	パン
後藤るみ子	塩麹、醤油麹、寒天、調理
石川青果 石川千尋	果物、小松菜
フーズバラエティすぎはら	食材提供
イタリア料理を愛する会 代表 堀川秀樹	食事費用
内村絵里	調理
小部晴枝	調理・ピアノ演奏
米倉 京子	菓子
せたな町 秀明ナチュラルファーム北海道	食材提供・調理
せたな町 ソガイ農園	食材提供・調理
せたな町 村上牧場	食材提供・調理
栗山町 吉田牧場	食材提供
真狩村を愛する会	飲料提供
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	飲料提供
株式会社伊藤園	飲料提供
三笠市 渡辺牧場	食材提供
七飯町	後援
せたな町	後援
松前町	後援
江差町	後援
厚沢部町	後援
長万部町	後援

たきのうえ 滝上町

渚滑川の会	運営協力
ホテル渓谷	入浴受入 バス送迎
滝上町観光協会	プログラム支援
滝上町サッカー少年団	プログラム支援
清原農園	プログラム支援
片岡太陽牧場	プログラム支援
迷志の会	食事支援
夏に恋まつり実行委員会	事業支援
ボランティアサークルたんぽぽ会	食事支援
村上一利	ジングスカン
秋山幸子	花火
月村崇良	月のチーズ
スーパーとうみ	すいか
清原農園	すいか、メロン、トマト、キュウリ
林農園	すいか
尾藤和子	ミニトマト、なす、ピーマン
川上佳子	ジュース
長沼豊他 2名	花火
滝上町	後援
滝上町商工会	後援
滝上町観光協会	後援
たきのうえドリーム	後援
滝上町教育委員会	後援
滝上町札久留町内会	後援
滝上町地域子ども会育成会連絡協議会	後援

みなみふらの 南富良野町

NPO 法人 どんころ野外学校	スタッフ派遣 プログラム提供
南富良野町	移動バス料金（南富良野町から大樹町） 役場職員派遣、移動用バス、夕食会招待 かなやま湖保養センター入浴料免除
南富良野町教育委員会	図書の貸出・かなやま湖スポーツ研修センター宿泊料免除・カヌー物品貸出・学校プール利用
北海道教育大学 岩見沢校	ボランティアリーダーの派遣
鳥羽農場 鳥羽光生	ミニトマト収穫体験、ミニトマト提供
子育て支援ボランティアサークル WISH 戒家麻紀	読み聞かせ
カリフリ農場 江頭謙一郎	食材提供、野菜提供
坪内誠子	プログラム運営補助
三浦武子	調理
新野昌子	調理補助
吉田寛丸	活動支援ボランティア
吉田うらら	活動支援ボランティア
宗形尚美	活動支援ボランティア
イトウ屋 伊藤英左恵	食材提供
富良野自然塾	プログラム提供
NPO 法人 被災学童集団疎開受け入れプロジェクト	富良野演劇工場富良野 GROUP「ノクトーン」観劇、夕食会招待 活動支援ボランティア（押し花はがきづくり教室）、押し花はがきセット
松村ケイ子	活動支援ボランティア（押し花はがきづくり教室）
神野靖子	活動支援ボランティア（押し花はがきづくり教室）
萩原	スイカ・メロン提供（上記プロジェクト夕食会）
黒岩	飲料提供（上記プロジェクト夕食会）
藤田	トウモロコシ提供（上記プロジェクト夕食会）
南富良野町	後援

たいき 大樹町

南十勝長期宿泊体験交流協議会	プログラム運営
雪印メグミルク株式会社	チーズ工場見学
砂金掘り友の会	砂金掘り指導
大樹町中島行政区	キャンプファイヤー協力
インカルシペ白樺	会場提供
齊藤（個人）	菓子
有岡（個人）	砂金しおり
大樹町	後援
大樹町教育委員会	後援

あっけし 厚岸町

NPO 法人根釧野外教育センター屯田の杜野外学校	プログラム実施
北方領土復帰期成同盟釧路地方支部担当推進員 樋原永幸	プログラム提供
厚岸町教育委員会	後援

2013年夏プログラム・ご協力いただいた皆様

しかおい 鹿追町

鹿追町子ども宿泊体験交流協議会	プログラム実施・宿泊場所無償提供
NPO法人アグリマンマごんや	食事提供
鹿追町農業協同組合	食材提供
株式会社北海道ネイチャーセンター	自然体験活動に係るプログラム作成、指導、活動の引率等
株式会社然別湖畔温泉ホテル	入浴施設提供、入浴料割引、遊覧船割引、食事場所提供的
花ねこパン屋	食材提供
鹿追町自衛隊協力会女性部	子ども受入イベントの企画・運営
ピュアモルトクラブ	子ども受入イベントの企画・運営
鹿追町料飲店組合	食事提供
萩原 寛暢	プログラム全体に係る指導、活動全体の引率

る もい 留萌市

東日本大震災被災者受入プロジェクト協議会	人材協力
NPO法人留萌観光協会	人材協力
留萌市役所	人材協力、バス送迎、宿泊場所提供的
幌糠小学校	体験プログラム用備品貸出 (ライフジャケット、オール)
北海道開発局 留萌開発建設部	人材協力、体験プログラム (留萌ダムカヌー体験)
エフエムもえる	体験プログラム(ラジオ番組収録体験)
小平町教育委員会	体験プログラム(鮫番屋見学)
B&G 海洋スポーツセンター	体験プログラム(マリンスポーツ体験)
国際ソロブチミスト留萌	人材協力、食事提供
フィールドるもい実行委員会	体験プログラム、体験プログラム用備品貸出
留萌菓子商組合青年部	お菓子提供(クレープ)
ホテル神居岩	バス送迎
苦前 Genkid's 実行委員会	人材協力
苦前町役場	人材協力
苦前町農協青年部	体験プログラム
苦前町漁業青年部	体験プログラム
広円寺	宿泊場所提供的
苦前温泉ふわっと	バス送迎、食事場所提供的
自衛隊留萌駐屯地	自衛隊子どもキャンプ受入
商店街組合連合会	駄菓子
国際ソロブチミスト留萌	ノート
大石昌明	メロン、スイカ
川口真弓	メロン
自衛隊留萌駐屯地	お菓子

しもかわ 下川町

下川町	下川町農村活性化センター「おうる」の無償提供
財団法人下川町ふるさと開発振興公社	下川町所有バスの運行 献立作成・食材発注
アボロ	五味温泉入浴 パフェづくり体験プログラム
普久原 涼太	学習指導
三津橋 英実	お祭りプログラム
名寄市立大	学生ボランティア呼びかけ
若シユフ会	消しゴムスタンプの絵はがきづくり 体験プログラム、メロンの提供
ふくしま文庫	移動図書館
奈須憲一郎	ボードゲーム遊びプログラム
NPO法人森の生活	運営協力
下川製菓株式会社	下川町産割り箸の提供
佐藤 導謙	食材(野菜)の提供
アテネファーム	食材(野菜)の提供
下川ロータリークラブ	バナナの提供
小峰博之	自軒漫画の提供
滝川康治	食材(野菜)の提供
一の橋地域食堂	トウモロコシの提供
寿フードセンター	タオルの提供

くりやま 栗山町

北海道日本ハムファイターズ	野球観戦、帽子寄付
北海道テレビ放送株式会社(HTB)	スタジオ見学、お土産
日本航空株式会社(JAL)	折り紙ヒコーキ教室指導・寄付、お土産
北海道銀行	BBQ協力スタッフ派遣
栗山町都市農村共生・対流促進協議会	プログラム講師派遣
ハサンベツリ山計画実行委員会	水辺の生き物調査用物品無償貸出
くりやまマルシェ実行委員会	マルシェ参加協力

島 早苗	学習指導
中野 孝幸	学習指導
小松 明美	学習指導
竹居田 温子	学習指導
余湖 敏一	学習指導
佐々木 理香	学習指導
涌井 文恵	学習指導、自然体験プログラム指導補助
NPO法人くりやま(栗山町図書館司書)	本の読み聞かせ
クレヨンカンパニー	人形劇・影絵劇上演
JAそらち南	米寄付
株式会社きなうすファーム	米寄付
北海道三富屋株式会社	牛乳寄付
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	飲料水寄付、帽子寄付
公益財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団	Tシャツ、エコバック寄付
有限会社日原メロン園	メロン寄付
日糧製パン株式会社	菓子パン寄付
くりやまマルシェ実行委員会	栗山監督サインボール、サイン色紙寄付
松田真枝	お菓子
栗山町	後援
栗山町教育委員会	後援

むかわ町

むかわ町交流人口推進穂別協議会	活動指導及び協力、ボランティア宿泊・食事提供
北海道穂別高等学校ボランティアサークル	活動ボランティア派遣
苦小牧広域森林組合	枝打ち体験、木育体験活動指導及び協力
北海道胆振総合振興局森林室	枝打ち体験、木育体験活動指導及び協力
むかわ町観光協会	地引き網体験協力等
穂別サッカーボー少年団	活動協力、ソフトクリーム提供
むかわ総合サービス株式会社	記録画像協力
株式会社七尾重機	清掃協力
むかわ町穂別博物館協力会	化石採掘体験協力
むかわ町国民健康保険穂別診療所	救急対応
むかわ町教育委員会	宿泊施設、体育施設减免、ボランティア派遣
むかわ町	施設使用料减免、ボランティア派遣
會澤高圧コンクリート株式会社	ペットボトル飲料提供
池田焼房工業株式会社	ペットボトル飲料提供
胆振豊田郵便局	タオル、ティッシュ等
むかわ町教育委員会	後援
むかわ町	後援

ひがしかわ 東川町

MayBe あさひかわ	8/11、21 ケビン宿泊料、8/22、8/25 バス代の支援
ワカサリゾート株式会社 旭岳事業部	8/15、21 ロープウェイ乗車の招待
株式会社 東川振興公社	8/11、21 公園利用料の免除
かみふらの教育ファーム推進協議会	8/17、24 農業体験プログラムの招待
東川町	8/15、21 遠足時の町バス提供(2日間)
美瑛町	8/16、23 ジングスカンランチの提供、キャンプ場の利用料免除
旭川市	8/12、22 旭川市科学博物館・旭山動物園の入館料・入園料の免除
上富良野町	8/17、24 教育ファーム体験の町バスの提供
北海道広域避難アシスト協議会	8/12、8/18 バスの支援
大雪山自然学校	プログラム運営
有限会社アグリテック	農業体験プログラム・コーディネート
村中農園	野菜の提供
木村	お菓子

ゆうばり

北海道教育大学岩見沢校	大学バスの運行、施設の貸与
北海道教育大学	ボランティアの派遣
株式会社スポーツピアゆうばり自然体験塾	物品の貸与、ディレクターの派遣
NPO 北海道自然体験活動サポートセンター	物品の貸与、ディレクター・安全管理者の派遣、ボランティア宿泊・食事提供
三笠市教育委員会	物品の貸与
㈱テーオー小笠原 木材事業部 夕張工場	薪・クラフト材料の提供

2013年夏プログラム・ご協力いただいた皆様

しべつ 標津町

標津町エコツーリズム推進協議会	プログラムの実施
標津町観光ガイド協会	フィールド体験指導など カヌーなど 3プログラム実施
標津小学校	宿題指導教員延べ 4名
川口真	おやつ
標津サケ定置漁業者部会	鮭
千葉元	夕食時差し入れ (肉類)
標津町観光協会	後援

みみない づ 南会津

尾瀬檜枝岐温泉観光協会	活動支援協力
民宿あづま	活動支援協力

あぶくま

明治安田生命	ボランティア派遣
鮫川村教育委員会	トレーニングセンター使用減免
NPO 法人 教育支援協会	ボランティア派遣
学生団体 STUNITY	ボランティア派遣
WCRP 世界平和会議	ボランティア派遣
ツリークライミングジャパン	ツリークライミング活動支援
グリコ	ボランティアの方 3人
WARERA 元気俱楽部	カレー 3 ケース
杉の子幼稚園	お米
中道 俊治 (個人)	マイクロバス期間中提供
	肉まん 40 個

しんしゅう きそ 信州木曽

大桑村	人員派遣
大桑村教育委員会	//
大桑村商工会	//
金子土建株式会社	人材派遣
学生団体 STUNITY	ボランティアリーダー派遣
大桑小学校 PTA	ますつかみ大会・レクレーション
大桑村商工会青年部	キャンプファイヤーレクレーション
栗山木工(有)	木工体験
須原婦人会	食事調理サポート
須原有志	長持ち披露
石真正 (広域消防)	川遊びサポート
徳丸智美	お米 18kg
テンホーフーズ	冷やし中華 (チャーシュー付き) 42 食、 ぎょうざ 35 人分 (250 g)、キムチ 6 瓶
	牛肉 5kg
	豚バラ肉 2kg
	鶏肉 1kg
	ウインナー 140 本
	ヨーグルト 40 個
	牛乳 6 ドラ
	飲むヨーグルト 40 本
ユープリント	スタッフ用キャップのロゴ
デイリーヤマザキ	しおり制作
田澤養鱒場	食パン 10 斤、ロールパン 80 個
田口美穂	ますつかみ用ニジマス 10kg (約 100 匹)
大桑村商工会青年部	味噌 1kg
田ぐち	水 2 ラット × 6 本
	かき氷
大桑村農産物生産販売組合	ジェラート (カップ)
	じゃがいも 15 個
	きゅうり 40 本
	玉ねぎ 25 個
	ミニトマト
	とうもろこし 30 本
	ピーマン 80 個
	かぼちゃ 3 個
	トマト 15 個
	水 2 ラット × 8 本
	500ml × 40 本
稻沢秀子	山菜おこわ 40 食 (8/7 朝食)
みのり会	ほお葉巻き 40 個
いなほ食堂	五平もち 49 本 (1 人 1 本サービス)
	スナック菓子 360 袋
	じゃがいも 20kg
	玉ねぎ 20kg
	人参 20kg
奥田工業(株)	500ml ペットボトル 120 本 (5 ケース)
スーパーマルトシ	500ml ペットボトル 48 本 (2 ケース)

羽根正熹、典子

ふるさと体験館きそふくしま	大玉すいか 2 個、ミニトマト 宿泊、人員協力 じゃがいも 10kg トマト 5kg とうもろこし 50 本 ベニヤボード 1 枚
永井信二	昆虫に関する講義、昆虫採集指導
長野県林業大学校	ボランティア協力
大桑村	後援
大桑村教育委員会	後援
大桑村商工会	後援
長野県教育委員会	後援
木曽教育委員会	後援

えひめ 愛媛

田浦自治会	9 日夕食、人材提供
魚藏	人材・場所提供
蛭子丸	10 日夕食人材提供
今治市吉海支所	バス運転
村上水軍博物館	入館料無料・着付け体験
能島水軍太鼓保存会	太鼓披露・体験
NPO 能島の里	11 日昼食、人材提供
渡部さん、お友達	11 日朝食、人材提供
今治ばりらーひろめ隊	人材提供
しまなみご当地グルメ研究会	サザエキャンドル、人材提供
今治焼豚玉子飯世界普及委員会	人材提供
NPO アクションアイランド	人材提供・食材提供
マルサンパントリー	人材提供
桜井漁協協同組合	地引網無料
桜井漁協協同組合青年部	人材提供
桜井漁協協同組合婦人部	人材提供
桜井小学校 PTA	人材提供
マルブン	料理教室指導
株式会社 愛媛銀行	寄付金手数料免除
株式会社 愛媛新聞旅行	飛行機旅費減額
今治模型社	花火 25 人分提供
山臣越智商店	カッ普ラーメン
衛生企業組合	米 60 キロ
桜井小学校 PTA	かき氷
美感美容室	ジュース 50 本
ミルキーイエイ	ジェラート 50 人分
周桑宅建協会	うなぎ
ヤクルト東予営業所ヤクルトレディー	ヤクルト
越智 宗隆 (個人)	ポンジュース 1 箱
渡部 昭孝	お米 8 升
鎌田農園	トマト
マルブン	料理教室材料
魚藏	食材提供
蛭子丸	食材提供
マルサンパントリー	食材提供
桜井漁協協同組合	魚提供
無茶々園	冷凍みかん
今治市教育委員会	後援
西条市教育委員会	後援
愛媛県公民館連合会主事部会	後援
今治市	後援
西条市	後援
松山市教育委員会	後援
愛媛県公民館連合会	後援
今治市 PTA 連合会	後援
公益社団法人 今治地方観光協会	後援
愛媛大学生活協同組合	後援
西予市	後援
西予市教育委員会	後援

2013 夏 協力団体

一般社団法人こどものチカラ研究会	こどもの絆プロジェクト 子どもを守ろうプロジェクト協議会
NPO あぶくまエヌエスネット	
NPO ezorock	
NPO 大沼駒ヶ岳ふるさとづくりセンター	
NPO 教育支援協会	
NPO 教育支援協会長野	
NPO 教育支援協会北海道	
NPO ねおす	
NPO 夢職人	
M-Dream	
大桑村子ども夢学校受入協議会	(50 音順)

2013年冬プログラム・ご支援いただいた皆様

特別支援団体



みんなで がんばろう ● 日本

公益財団法人東日本大震災復興支援財団

東日本大震災復興支援

善光寺出開帳両国回向院

イースポットミヌマ
イケガミマサユキ
イケダサツキヤマキヨウカイヨウチエン
石川 紀子
伊丹 千晶
イチカワヒロコ
伊藤 潤
伊藤美紀
いのちをつなぐチャリティーマルシェ
実行委員会
イワタフミコ※
岩本 彩子
ワイニジュウイチジャパンサ
上廣倫理財団
ウエムラミチコ
上村 悅子
MPI カンサイパートナーハツヒ
オウエンダンオオタ
オオタキアケミ
オオマエヨミ
オオアケミ
奥村正憲※
オトベチョウメイワショウジト
ガイコクソウキン (Global Giving) ※
Edye Kamensky ※
Thomas Huisman
Takaki Yasukawa
Gary Tregoning ※
Sho Hirabayashi
CHIYUMI SATO
Satoshi Suzuki
Cecile Ngongang
Anonymous (匿名)
The Phillip and Irene Toll Gage Foundation
Lisa Hammer
Etsuko Kawamori
Mitsuru Yonaha
柏川 素子
片山 啓子
カタヤマトモコ
川嶋 登千代
キョウトフォローアップ
CLUB HALLOWEEN @SHIBUYA2013
CHRISTMAS PARTYS
ゴタンノヨウチエン
コバヤシタケシ / チカコ
小檜山 浩
小正和彦
佐藤 孝治
J-SHINE 神奈川運営委員会
スミシンライフカード (カ
スミダクフレンドリープラサ
ユ) セイントアロー※
善光寺出開帳両国回向院実行委員会
特定非営利活動法人全国検定振興機構
曾田 美也
園田 季一※
田中 健一
WWW 杯
トウキョウトリップチュウヒガシ

株式会社東和電機製作所
匿名希望
匿名希望
匿名希望
匿名希望※
匿名希望
匿名希望
匿名希望
匿名希望
トシノセノバザール
トダサワミネコ※
トリイミチコ
長崎 羊子
ナカノノリヒト
繩田 早苗
南部 達夫
シャ) ニホンエンパワーメ
力) ネットラスト
HAPPY11311
ハラダコウジ※
公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
ヒラサワユウコ
フタミツトム
堀野 美夏
堀野 伸夫※
松永 登
マツモト カズヒコ
道上 深紗子
ミドリカワヒロユキ・アヤ
南 律雄
ミヤジマミチタカ
MOON FISH オザワユ
武藤 十紅美
ヤシマショウテンオオシマトモコ
ヤフー (カ※
ヤフーケッサイ※
ヤフービジネスサービス※
ヤマザキミチコ
ヤマノウエマー・ケットジッコウイ
ヤマモトマホ
ヨコハマキヨウリツガクエンド
吉田 尚子
吉永 小百合
吉元 章雄
ライフカード (カ
Lien-Kizuna
レナジャポンインステイチュー
カ) ロッキングオン

レディースセミナー受講生 13名
今治市桜井校区婦人会
地域教育実践教育集会
義援金箱
保内町商工会青年部
大本 博
宇都宮 正明
松本 和彦
都築 伸政
佐々木 和子
本町お船実行委員会
しめ縄づくり時の義援金として
永松医院 永松 昭彦
二宮 英寿
松本 功一
宇都宮 慎児
国安 泰次
菊池 敏和
藤井 亮
清水 秀樹
松本 有加里
川之石地区公民館
しめ縄づくりの残金から
亀井 泰志
兵頭 美徳
菊池 将文
梶田 キチ工
MDRT 日本社
石井 功
砥部町ひろた交流センター

50音順 (敬称略)
期間: 平成 25 年 9 月 1 日～12 月 31 日
※は複数回ご支援頂きました方

北海道プログラム 北海道教育大学岩見沢校教職員組合

あぶくまプログラム 千葉 温

横浜プログラム 青山 茂昭 (株)教育測定研究所 有志一同

愛媛プログラム 梁田 三代子

2013年冬プログラム・ご協力いただいた皆様

あぶくまプログラム

湯遊ランドはなわ	入浴料減額
鹿角平観光牧場	ソリ遊びフィールド
松本 哲郎様	茶道指導
岩根 千明様	いちご 8 パック
柳田 千代子様	お菓子
根本久 巳江様	お菓子
五十嵐 正明様	お菓子
近藤 由紀子様	お菓子
田口 純里様	お菓子
吉崎 文浩様	お菓子
橋本 玲子様	みかん 2 箱
WARERA 元気俱楽部	お米 30 キロ

平野 まち子様	事前会場準備
佐々木 一子様	事前会場準備
米倉 京子様	クリスマス菓子
吉崎 文浩様	クリスマスプレゼント（お菓子）
藤田 朋大様	クリスマス菓子
大沼流山牧場	食事・プログラム提供
梅沢 実枝様	クリスマス菓子・プログラム提供

北海道プログラム 大沼コース

七飯町	施設無料開放
せたな町	施設無料開放
東大沼町内会	施設無料開放
森町商工会議所	受入手配支援
濁川活性化委員会	民泊・合宿協力
清和の丘クラブ	民泊・合宿協力
森町商工会議所	民泊・合宿協力
厚沢部ふくしまキッズ実行委員会	民泊・合宿協力
江差町子どもの健康を守り隊	民泊・合宿協力
NPO 法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター	運営協力
南北海道グリーン・ツーリズム運営連合会	運営協力
大沼グリーン・ツーリズム推進協議会	運営協力
一般社団法人子どものチカラ研究会	運営協力
北海道教育大学	ボランティアスタッフ派遣、送迎バス
NPO 法人 ezorock	ボランティアスタッフ派遣
JR 北海道	施設提供
吉原 志津子様	米 100kg
渡辺農場	玉葱 40kg、キタノカオリ 25kg
野中信成牧場	牛肉
厚沢部農家有志	じゃがいも 120kg
八島商店	昆布、生昆布
森垣農園	卵 320 個
橋本様	コーヒー豆 2 袋
石屋製菓株	白い恋人（お菓子）
株式会社オンザウェイ	トランシーバーレンタル
高橋 康雄様	薪割り
長谷川 みのり様	事前会場準備
今 香織様	事前会場準備
岡部 準子様	事前会場準備
佐々木 秀代様	事前会場準備
高島 康雄様	事前会場準備

北海道プログラム ゆうばりコース

吉崎 文浩様	クリスマスプレゼント（お菓子）
石屋製菓株	白い恋人（お菓子）
北海道教育大学岩見沢校	大学バスの運行、施設の貸与
北海道教育大学	ボランティアの派遣
株式会社スポーツピア	ディレクターの派遣
NPO 法人北海道自然体験活動サポートセンター	物品の貸与、ディレクター・安全管理者の派遣
三笠市教育委員会	地元交流企画の広報
岩見沢市教育委員会	地元交流企画の広報
栗山町教育委員会	地元交流企画の広報
夕張市教育委員会	地元交流企画の広報
吉村葬儀社	ロウソクの提供
札幌市円山動物園	体験活動の指導

愛媛プログラム

双海町ジュニアリーダー会スタッフ	人材提供
(有)シーサイドふたみ	会場提供、23 日分クリスマスプレゼント 20 個提供
高柳 由美様	書道パフォーマンス指導
河野 多美子様	書道パフォーマンス指導
愛媛県立松山東高等学校俳句部	俳句プログラム指導
八幡浜市立川之石小学校	人材提供（交流会 他）
川之石小学校 PTA	人材提供（ホームスティの斡旋、交流会）
川之石地区区長会	人材提供（ホームスティの斡旋、交流会）
愛媛県立川之石高等学校	みかん狩り提供
川之石地区社会福祉協議会	人材提供（ホームスティの斡旋、交流会）
川之石地区民生児童委員協議会	人材提供（ホームスティの斡旋、交流会）
楠町区・楠町自治公民館	12/25 場所提供的、御神輿体験人材提供
食生活改善協議会川之石支部	12/25 昼食づくり体験指導、人材提供
日赤奉仕団川之石分会	人材提供（ホームスティの斡旋、交流会）
NPO 法人ふれあいの山里ひがし	12/26 ピザ焼き体験指導、人材提供
(有)エーデル企画	12/26 ピザ焼き体験指導、器具の無償提供
川之石の愛をつたえ隊	2 日間の人材提供
愛媛大学・東雲女子大学・松山大学ボランティアスタッフ	人材提供
愛媛県立川之石高等学校 生物生産系列生徒	みかん狩りのアシスト
川之石地区公民館	川之石プログラム主催（企画・立案・運営等）
みかん研究所	みかん搾り機

2013年冬プログラム・ご協力いただいた皆様

山栄堂	スポンジケーキ 6 個	横浜長老教会	食事作り手伝い
レディースセミナーの皆様	24 日分クリスマスプレゼント 20 個提供	ふくしまカフェ	食事提供
株あわしま堂	和菓子 100 人分 (300 個) の提供	よりそい隊	食事作り手伝い
道岡 喜好様	みかん、絞り立てミカンジュース (24 本) の提供	野島青少年研修センター	宿泊先提供
橋岡 公正様	みかん、地だこ、ちじみ等の食材提供	宮宿花 1、2 丁目町内会	夜警体験、夜食提供
曾我 澄子様	12/25 昼食づくりの指導	大岡川アートプロジェクト	七色提灯工作
西本 真由美様	12/25 昼食づくりの指導	ツリークライミングジャパン	野島公園でのツリークライミング体験
二宮 嘉彦様	12/26 ピザ焼きの指導	学生団体 STUNITY	プログラム提供
西山 一規様	2 日間の写真撮影	M-Dream	クリスマスケーキ提供
楠 忠法様	ヤクルトの提供	避難・支援ネットかながわ	人材提供
石井 功様	お菓子提供	ゆいの会	人材提供
中村 久夫様	みかん 50K	NPO アクションポート横浜	人材提供
愛媛県公民館連合会	後援	NPO 東京ノービー・レパートリー・シアター	特別公演開催
愛媛県教育委員会	後援	NPO 法人デジタルポケット (渡辺 勇士様)	だがしや楽校プログラム協力
西予市教育委員会	後援	滝沢 麻由美様	だがしや楽校出店 (バルーンアート)
大洲市教育委員会	後援	近藤 晃様	だがしや楽校 器材提供
西予市	後援	猪熊 隆之様	大山登山協力
伊予市	後援	岩田 公夫様	もちつき協力
大洲市教育委員会	後援	山口 奈々子様 吉山 華蓮様	思い出のランプ作りプログラム提供
松山市	後援	小林 洋子様	キッザニア入場手配 / 手作りバーグのぬいぐるみ
松山市教育委員会	後援	フードバンクかわさき	ビスケット
八幡浜市	後援	フリースペースみなみ	手作りクリスマスプレゼント
八幡浜市教育委員会	後援	放課後イングリッシュ	クリスマスカード
八幡浜市公民館連絡協議会	後援	代官山蔦屋書店	お土産のバッヂ
愛媛新聞旅行社	交通費協力	忍者ファーム (広田 実様)	みかん 1 箱
伊予市教育委員会 双海地区公民館	共催	谷川 松芳様	じゃがいも 28.3K 人参 8.3K 玉ねぎ 12K
愛媛県公民館連合会主事部会	共催	成田 みえ様	バター 15K・りんご 20K

富士山プログラム

いなご農場	廃鶏提供
いづみ加工所	そばうち講師
柚野小学校	チラシ配布

横浜プログラム

横浜・八景島シーパラダイス	入場料割引 / おみやげキーホルダー
スポーツジヤングル 10	選択プログラム実施受け地
金沢動物園	特別体験開催
(株)ピア・フォー	屋形船提供
(株)えびぬま	ふとんの割引レンタル
(株)横浜ビール	Xmas ディナー、ウォーターラリーランチ 提供
野島町婦人会	食事作り手伝い

横浜長老教会	食事作り手伝い
ふくしまカフェ	食事提供
よりそい隊	食事作り手伝い
野島青少年研修センター	宿泊先提供
宮宿花 1、2 丁目町内会	夜警体験、夜食提供
大岡川アートプロジェクト	七色提灯工作
ツリークライミングジャパン	野島公園でのツリークライミング体験
学生団体 STUNITY	プログラム提供
M-Dream	クリスマスケーキ提供
避難・支援ネットかながわ	人材提供
ゆいの会	人材提供
NPO アクションポート横浜	人材提供
NPO 東京ノービー・レパートリー・シアター	特別公演開催
NPO 法人デジタルポケット (渡辺 勇士様)	だがしや楽校プログラム協力
滝沢 麻由美様	だがしや楽校出店 (バルーンアート)
近藤 晃様	だがしや楽校 器材提供
猪熊 隆之様	大山登山協力
岩田 公夫様	もちつき協力
山口 奈々子様 吉山 華蓮様	思い出のランプ作りプログラム提供
小林 洋子様	キッザニア入場手配 / 手作りバーグのぬいぐるみ
フードバンクかわさき	ビスケット
フリースペースみなみ	手作りクリスマスプレゼント
放課後イングリッシュ	クリスマスカード
代官山蔦屋書店	お土産のバッヂ
忍者ファーム (広田 実様)	みかん 1 箱
谷川 松芳様	じゃがいも 28.3K 人参 8.3K 玉ねぎ 12K
成田 みえ様	バター 15K・りんご 20K
吉崎 文浩様	おかし 71 個
矢吹 俊男様	じゃがいも 19K 人参 8K バター 15K
水本 和宏様	みかん 6 箱
和田 紀子様	備品提供
三浦 尚子様	クリスマスブーツのお菓子
八景島シーパラダイス 販売店スタッフ	シーパラダイス記念グッズ
横浜市こども青少年局	後援

※ボランティア案内…フェリス女学院大学、神奈川県立福祉大学、関東学院大学、横浜 YMCA



2014 ふくしまキッズ 春のプログラム 活動報告



2014 ふくしまキッズ 春のプログラム 活動報告

北海道プログラム(ゆうばりコース)

引き受け地支援金募金者数 1件
参加ボランティア数 27名
協力関係団体 7団体

エピソード

みんなで夕ご飯作り：食事作りを通して「みんなで協力して活動する」「責任を持って役割をこなす」ことを考えてもらえたと思います。

旭山動物園・旭川市科学館ツアー：旭山動物園での活動は、話し合いで事前に計画する「自分たちで作ったプログラム」でした。

恋するフォーチュンクッキー in ゆうばりプログラム：みんなで作るゆうばりコースの“プロモーションビデオ”。YouTubeで公開中(<http://youtu.be/1lBdkR0JgPU>)。

ボランティアの感想

まだまだ福島では安心して生活できるようになるのは難しいと思いますが一刻も早く外で元気いっぱいに遊ぶ子どもたちが見られるのを願っています。 (あおい)

せめて北海道にいる間は何もかも忘れて子どもらしく過ごしてくれたらという思いでいっぱいです。 (うめ)



北海道プログラム(大沼コース)

参加ボランティア数 30名
ホームステイ引き受け家族 4世帯
協力関係団体 12団体

エピソード



味噌づくり：七飯町の大豆で味噌づくりを行いました。冬に食べることができると聞いて子どもたちは「早く食べたい」「絶対また来るね」。食を通じて子どもたちと大沼とのつながりがまた強くなりました。

森からのつながり：薪割りをしてドラム缶風呂のお湯を沸かす。採取した樹液でメープルシロップを作りおいしくいただく。日常生活と自然のつながり、子どもたちは知らず知らずのうちにたくさんのこと学んでいる。

地域との交流・波及：過去に民泊先となった家庭の方がわざわざ大沼までしてくれました。お互いに強いつながりを感じる「笑顔」に出会うことができた瞬間でした。

ボランティアの感想

子どもたちとの時間が重なっていくごとに、この子どもたち全員の笑顔を守りたいという思いが強くなり、今後も携わり続けていこうと決意しました。 (ゆみ)

みんながいたからこそ、自分たち北海道のスタッフは楽しみ、笑い合い、子どもたちと共に成長できました。また、北海道の地で会いましょう。 (ペニー)

ふくしまメッセージ

ふくしまキッズで子供達は大きく変わりました。自分の考えを持ち、たくさんの人達に感謝の気持ち持てる様になりました。これからも子供達の未来に手をさしのべて頂けたら、こんなにありがたいことはありません。 (白橋)

いわきではできない遊びや、人との交流を深めて、いっぱい学び、それを、いわきでもいかしたいと思います。 (雄太)

自分が成長したら、北海道の皆様への恩返しとして、出来る限りの事をしていきたいと思っています。 (大門)

あぶくまプログラム

引き受け地支援金募金者数 1件
参加ボランティア数 15名
協力関係団体 7団体



ボランティアの感想

たった一度の子ども時代は**子どもらしく元気よく**遊んでほしい。その願い通り、子どもらしい心が育ち、大人になるに必要な規範も身につけられたのではないかと思います。（広太）

スタッフの一員として活動していくうちに、自分に足りない部分が色々と見つかりましたが、日々、成長していく子供たちを見ていると、**自分も頑張ろう**と感じました。（がっぴー）

エピソード

なかよしの木：一日一枚、カードに仲間の良いことを書き、なかよしの木を描いた模造紙に張り付けていきました。**子どもたちの良いことの花が満開**になりました。

朋あり遠方より来る：昨年のホームステイのホストの方が訪問してくださいました。子どもと子ども、大人と大人の**分かり合え、認め合える関係**が築かれていきました。



ふくしまメッセージ

きょ年は、さみしくなって、ないてしまいました。今回は、**だいじょうぶだと思います。**（奈々）

東日本大震災があって一番変わったことはクラスの人数が減ったことです。避難して、戻ってこない友達がたくさんいます。ふくしまキッズに参加して、**たくさんの方達をつくりたい**と思います。（萌恵）



京都プログラム

引き受け地支援金募金者数 16件
参加ボランティア数 50名
協力関係団体 8団体

エピソード

今回素晴らしいことは、何より人間関係です。男女、地元の子供たち、大学生、知らない大人、そんな色々な **人間の化学反応** がとても上手くいったように感じています。

ボランティアの感想

私はこのふくしまキッズを経験する中でひとつ目標のようなものを見つけました！**将来の夢**の一つに学校の先生を考えてみよう決めました！（哲郎）



ふくしまメッセージ

知井の里に来てくれた子ども達に対して、気兼ねなく話をし、心から楽しんで一緒に活動する事が大人のできる支援であり、**われわれの学びの場**だと思います。（善裕）

兵庫・新温泉町プログラム

引き受け地支援金募金者数 4件
参加ボランティア数 15名
ホームステイ受け家族 7世帯
協力関係団体 6団体

エピソード

子どもたちはホームステイ先で地域自慢が出来るように予習をしました。お別れ式の場でホストの感想の中に「**福島県でまた会いましょう**」という言葉が出てきました。良い地域自慢が出来たと感じた瞬間でした。



ボランティアの感想

子供たちに大きな問題もなく無事にプログラムを終えることが出来たのは現地本部の方や**地元の方々の支え**があったからだと本当に感謝しています。（りほ）

ふくしまメッセージ

放射線を気にすることなく、のびのびと活動させてもらえることをありがとうございます。また、初めての家族や子ども達と交流するという貴重な経験は娘にとって**大きな財産**となることでしょう。（保護者 K）

長崎プログラム

引き受け地支援金募金者数 3件
参加ボランティア数 36名
協力関係団体 5団体



エピソード

平和学習：長崎原爆資料館、平和公園を訪れました。一人の子どもから、「私たちも大変だけど、長崎のみんなはもっと大変だったんだね。」と言われました。**平和の大切さ**について知つてもらえたことは、今後の人生に生かされるのではないかと思います。

ふくしまメッセージ

長崎の方々が過去の辛い体験を乗り越えて力強く、たくましく、明るく生きる様子を見て、何かを感じ、長崎での様々な体験が、子供たちのこれからの**生きていく力**の一つになってくれればと思います。（大翔の母）

ボランティアの感想

個人の力は微々たるものですが。私もその一人です。しかし、そんな私でさえ、こんなにも**たくさんの笑顔を生み出す**ことができました。（亘）

2014年春プログラム・ご支援いただいた皆様

■特別支援団体



みんなで がんばろう ● 日本

公益財団法人東日本大震災復興支援財団



3.11

チャリティコンサート
第3回 全音楽界による音楽会



当日集めた義援金の1/3がふくしまキッズ実行委員会に寄付されました。

アイウイッシュプロジェクト

有馬 智子
伊藤 潤
イトウイズミ
WE21 ジャパンサイワイ※
上廣倫理財団
ウエムラミチコ
梅地 展之
大森未咲
オクムラマサノリ
スズカイズミ / オチケイコ
オノユウジ
オフィスレインボウ湯川れい子
カタヤマトモコ
勝田 綾子
カナイマサル
神尾 彰吾※
川嶋 登千代
川田 剛
キムライサゴ
株式会社教育測定研究所志
キリタップシッゲンセンター
ガイコクソウキン (Global Giving) ※
Anonymous (匿名)
Futoshi Baba
Allen Collins
Thomas Oldham
Edye Kamensky ※
Tsuyoshi Kumakura
Joy Ng
MR Production Raggett
Jeremy Hays
Yasunari Saito
Yasunori Kobayashi
Yuko Fujii
Giuseppe Manes
BARBARA NEAL
Toshiye Osa
Gary Tregoning ※
Adam Menist
Daniel Estes
Dyani Galligan
Veronica Seder
SHIN SUGINO
VW evening
Ken Ochiai
Susan Huntley
Greg Davis
Tetsu Suzuki
Your Cause, LLC Trustee for Zynga

Yukimasa Matsuda

Naoko Ono
Yoshida Hirohiko
NA CHIYO IDA
KOJI SATO
NAGASAWA MASAYUKI
Tamotsu Fujita
Mitake Yoshida
Ema Yamashiro
Michiko Ikeda
Yasuko Tanaka
Kazuya Aoki
Kozue Yasue
Toshiyuki Mashio
Hitomi Iguma
Hidenobu Sasaki
Norohige Yasue
Toshiaki Kant
Kathleen Dunphy
AKIO YOSHIMOTO
Yoshifumi Setsuda
芝野 靖
Sumiyo Fukuyama
コトウアマネ
子供 NGO「懐」
コバヤシタケシ / チカコ
小林 俊介
小林マキ
金野栄太郎
サトウタケシ
白井 まゆ子
進藤 了彦
スズキジュンコ
スタジオ マノマノ
ユ) セイントアロー※
第3回全音楽界による音楽会
園田 季一※
田中 友基
匿名希望※
匿名希望
匿名希望
匿名希望
匿名希望
トダサワミネコ※
富岡 真美
ナカシマトシコ
南部 達夫
シャ) ニホンエンパワーメ
ハラダコウジ※
ヒガシカワエバ

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

ヒマワリプロジェクト
ヒューマンアカデミー (カ
ヒラサワユコ
ヒラモトミエコ
ユ) ヴェール
フタミツトム
マークアキサオフィス
カ)マイニチシンブンシャ
マツカヨウコ※
三木 節子
村瀬 リフォームサービス
モリタタカコ
トクヒ) モリノセイカツ
ヤフーケッサイ※
ヤフー (カ)※
ヤマナシヒロカズ
ヨコハマチョウロウキョウカイ
蓮花寺 康裕

■京都プログラム

美山町宮島振興会
青木信雄
のあっく 山本さん
野々下 靖子
美山診療所 尾崎博
京都新聞社会福祉事業団 補助金
東日本大震災支援事業
池内めぐみ
きむら あきひろ
田中 直弥
酒井 成美
さとう のぶひこ
大野照美
みうら れいいいち
三浦 唯雄
たなか じゅんこ

■北海道ゆうばりコース

北海道教育大学岩見沢校教職員組合

■長崎プログラム

夢彩都募金箱
長崎純心大学東日本大震災被災者支援
プロジェクト活動資金

■あぶくま

ボイスカウト埼玉連盟

2014年春プログラム・ご協力いただいた皆様

北海道プログラム 大沼コース

NPO 法人ねおす	運営協力
NPO 法人大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター	運営協力
南北海道グリーン・ツーリズム運営連合会	運営協力
大沼グリーン・ツーリズム推進協議会	運営協力
社団法人子どものチカラ研究所	運営協力
北海道教育大学	ボランティアスタッフ派遣、送迎バス
NPO 法人 ezorock	ボランティアスタッフ派遣
JR 北海道	施設提供
七飯町	施設無料開放
東大沼町内会	施設無料開放
ふくしまキッズ林間学校江差実行委員会	民泊・合宿協力
八雲町地域おこし協力隊	民泊・合宿協力
鹿部町地域おこし協力隊	ホタテ殻むき体験プログラム
八島商店大島さん	米 5kg、昆布 3袋
モリガキ農園	たまご
吉原 志津子	米
岡部 準子	事前会場準備
平野 まち子	事前会場準備
高島 美紀	事前会場準備
三栗 沙恵	事前会場準備
山崎 茂	事前会場準備
山口 みのる	事前会場準備
山根 敦美	事前会場準備
穴澤 朱実	事前会場準備
渡部 弘子	じゃがいも一袋（約 20 キロ）
村上 嘉子	じゃがいも一袋（約 20 キロ）、スタッフ差し入れ
フロムネイチャーフーム	じゃがいも
坂本食品	漬け物
八雲チーズ工房	飲むヨーグルト、蜂蜜
勇内山鮮魚店	かぼちゃプリン
水口 忠行	活ホタテ
村上牧場	ナチュラルチーズ、パルメザンチーズ
野上 麗	牛乳
渡辺農場	玉ねぎ
株式会社オンザウェイ	トランシーバーレンタル

ゆうばりコース

北海道教育大学岩見沢校	貸し切りバスの運行、施設の貸与
北海道教育大学	ボランティアの派遣
株式会社スポーツピア	物品の貸与、ディレクターの派遣
NPO 法人北海道自然体験活動サポートセンター	物品の貸与、ディレクター・コーディネーターの派遣
三笠市教育委員会	地元交流企画の広報
岩見沢市教育委員会	地元交流企画の広報
栗山町教育委員会	地元交流企画の広報
夕張市教育委員会	地元交流企画の広報
旭川市	旭山動物園・旭川市科学館の入館料減免
㈱口バ菓子司	お菓子の提供
㈲吉田農場 吉田寿恵	玉ねぎ 20 キロ

京都プログラム

財団法人美山自然文化村「河鹿荘」	子供・スタッフ全員の入浴（大浴場）無償提供 2回
田歌区	公民館の利用提供及び朝食の給仕
江和区	公民館の利用提供及び朝食の給仕
知井小学校及び同 PTA	小学校の開放 地元児童との交流会協力
知井振興会	知井地区住民への広報など
京都市	ユースホステル宿泊代の减免 二条城への無料拝観
南丹市	ケーブル TV 放映など広報の協力
(株)大阪愛農流通センター	人参 20 キロ ジャガイモ 20 キロ 玉ねぎ 30 キロ 小松菜 50 束
外田養鶏場	卵 420 個
おもしろ農民俱楽部	ソーセージ 120 本 ベーコン 300g 他
枕仙楼	タオル 55 枚 自家製味噌 8 袋
片山 和美	白菜 8 玉 大根 8 本 キャベツ 4 玉 人参 10 本
木村 光一	白菜 4 玉 キャベツ 4 玉
中西 知	ゴマ 2 ㍑
上田 利之	ほうれん草 3 束 小松菜 1 束 葉セロリ 1 束
松本 鶴子	丸大根 10 本
岡本 勝	大根 5 本
美山ふるさと株式会社	美山牛乳ジェラート 6 キロ
美山ごんべの会	そば粉 2 キロ
中野養鶏場	卵 80 個
寺井ブルーベリー農園	ブルーベリージャム 1 キロ
㈲美山町自然文化村	リンゴペースト 2 キロ
大牧 貞子	大根 3 本
ふらいばん	食パン 9 斤 バンズ 120 個
大牧 ちえ	ネープル 1 箱 デコポン 1 箱
こと京都(株)	ねぎ 1 箱
能勢さん	ビスコッティー 2 袋
青木 信雄	生ハツ橋 40 個
井栗 秀直	米 30 キロ
農事組合法人日本海牧場	米粉カレー粉 1 キロ袋 2 袋 ブルーベリージャム 12 個
フルーツ王国やさか	ドライフルーツ 30g × 10 パック ジャム 10 瓶 桃の甘露煮 30 パック
㈲芦生の里	ふきしぐれ（佃煮）13 袋
高野 とみゑ	丸大根のお漬け物
木村 彰宏	米 10 キロ
江和ランド	米 30 キロ
田歌舎	米 30 キロ
井栗 秀直	米 30 キロ
京都市	後援
南丹市	後援
南丹市教育委員会	後援

飛驒高山プログラム

一般社団法人ふるさと体験飛驒高山	郷土食（笹の葉寿司、五平餅）体験
朴葉荘	学生ボランティア宿泊提供
高山市教育委員会	ホームステイ協力

2014年春プログラム・ご協力いただいた皆様

高山市教育委員会	スクールバス提供（3日間）
高山市教育委員会	高山市内散策事前指導、参観施設無料提供
高山市教育委員会	熟議参加児童募集
高山市小学校長会	ホストファミリー募集、市内散策児童募集
高山市立南小学校	熟議会場、芸術体験会場提供
高山市立新宮小学校	ホームステイ対面式会場、土曜学校会場提供
高山市福祉協議会	土曜学校主催
オークビレッジ	箸づくり、森林体験活動を無料提供
各務原市少年自然の家	宿泊、野外炊事、クラフトを減免提供
かかみがはら航空宇宙博物館	参観無料提供
航空自衛隊各務原基地	航空機、消防車への体験搭乗
ぎふ学生ボランティア地域活動ネットワーク推進協議会	ボランティア募集派遣
原発問題を考える会	DVD60枚
NPO 泉京・垂井	垂井町での活動協力
垂井町立不破中学校生徒会	垂井町での活動協力
垂井町立垂井北中学校生徒会	垂井町での活動協力
垂井町教育委員会	垂井町での活動協力
学生団体スタンティ	各務原市での活動協力
中島 法晃	芸術体験指導
久保倉 千明	芸術体験写真提供
鈴村 あすか	芸術体験指導
関谷 祐司	芸術体験指導
(株)シネマズギックス代表馬杉雅喜	映像編集
工房てのひら 高橋勤子(たかはしいそこ)	手創り人形
(株)明治製菓	お菓子段ボール1箱
(株)コーシン	ペットボトルお茶72本
岐阜県教育委員会	後援
各務原市教育委員会	後援
垂井町教育委員会	後援
高山市教育委員会	協力

長崎プログラム

諫早青少年自然の家	天体学習指導、野外炊飯指導
大園小学校	人材提供、おやつ代支給
さくら食堂	昼食調理援助
大浦小学校	人材提供
寺脇 研様	熟議にて指導
黒崎のシスター方	マドレーヌ
吉田様	お菓子
さくら食堂	焼き菓子、bingo景品、ジュース
三ツ山修道院シスター	焼き菓子
加津佐イルカウォッティング	ポストカード
長崎市長	シール、ピンバッジ
大園小学校	おやつ代・おやつ
長崎市教育委員会	後援

あぶくまプログラム

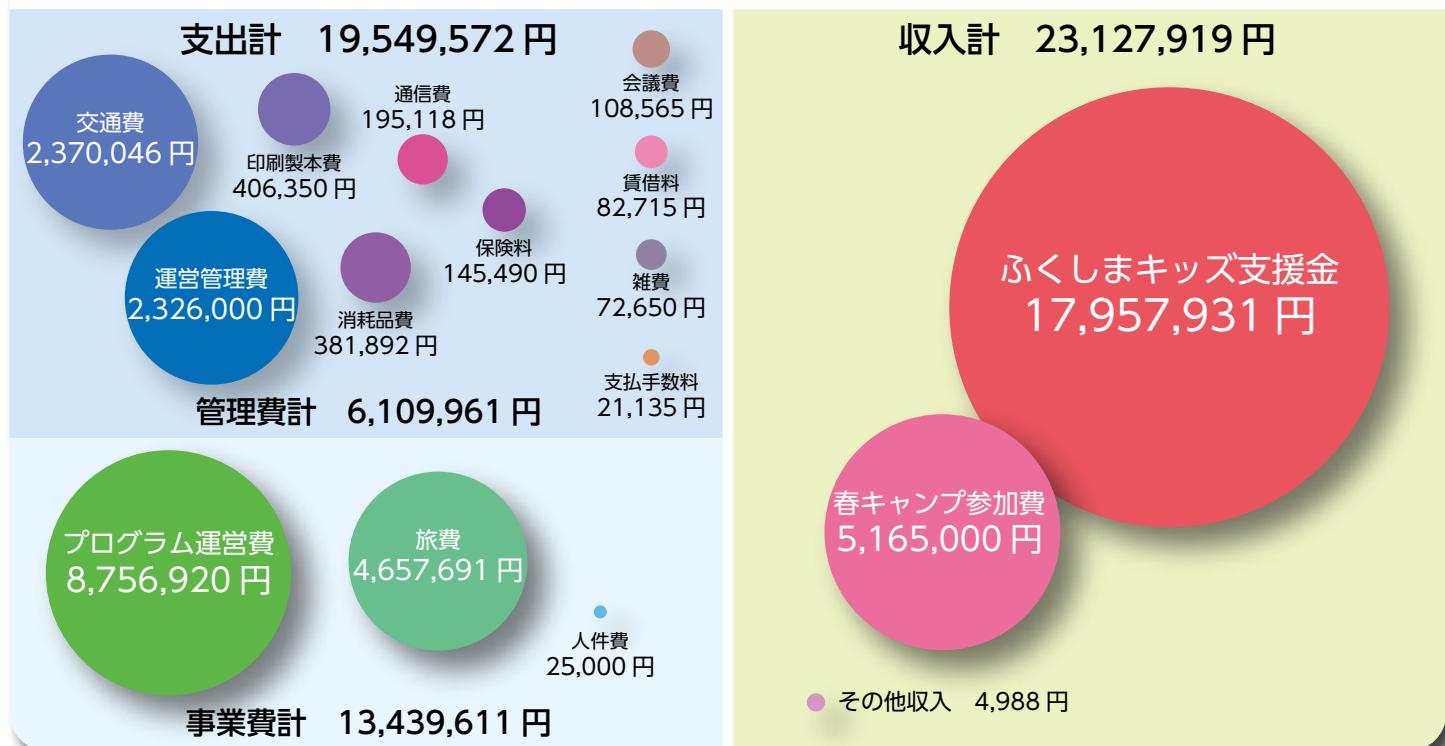
ツリークライミングジャパン	ツリークライミング体験指導
湯遊ランドはなわ	入浴料減額
鮎川村トレーニングセンター	室内スポーツ施設開放
ほっとはうす・さめがわ	体験使用料減額
北海道一池田農園	タマネギ
橋本 玲子	バナナ
庄司 悟	お菓子、エスカッピング
蓮沼 仁志	果物デコポン
佐藤 智恵	リンゴジュース
郡司 大	お菓子、バームクーヘン
井上 恵子	お菓子、漬け物
根本 浩伯	お菓子
WARERA 元気倶楽部	お米 30キロ
(㈲)吉田農場 吉田寿恵	玉ねぎ 20キロ

兵庫プログラム

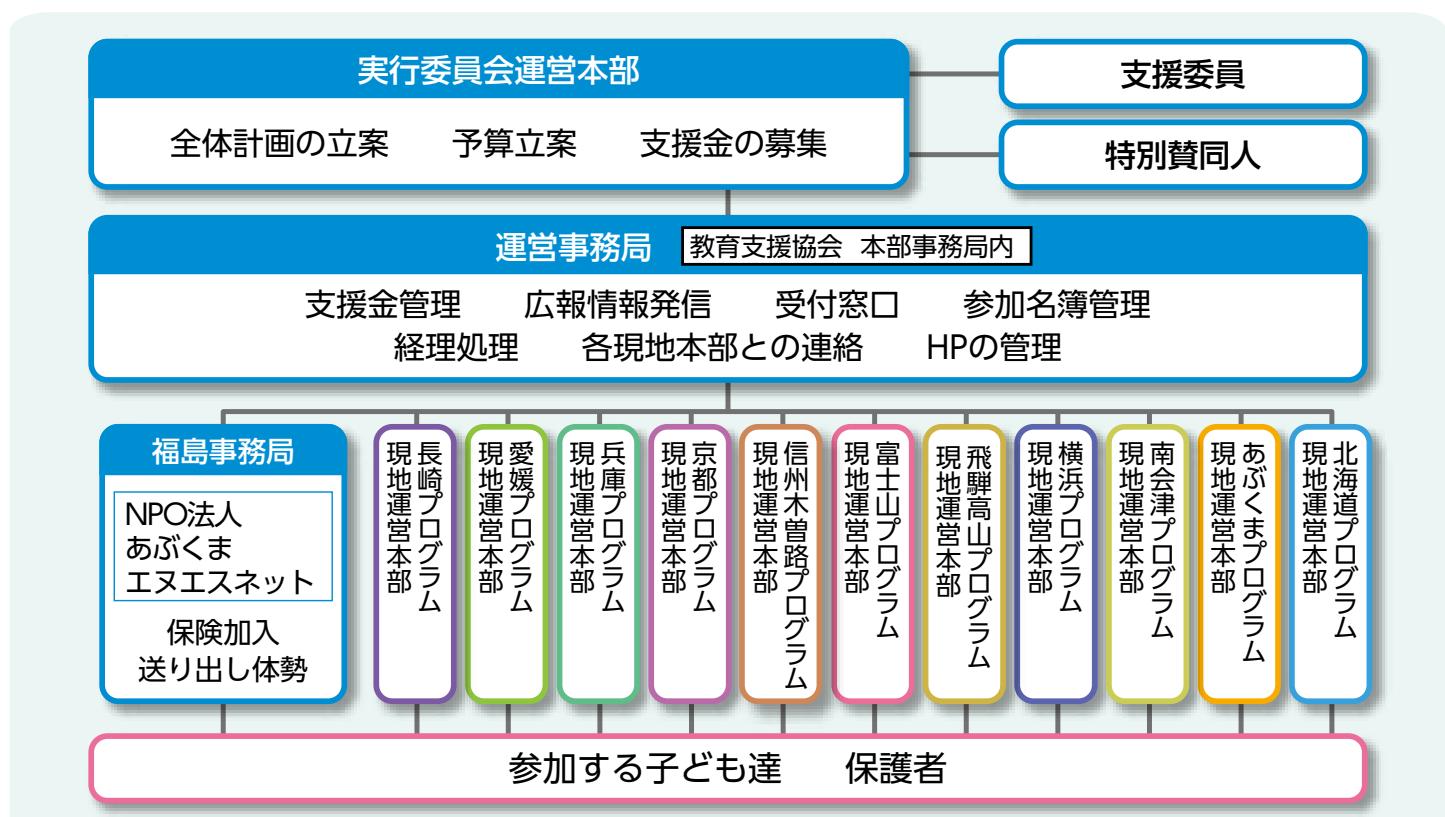
山陰海岸ジオパーク館館長及び職員	ジオパーク説明、砂絵指導
兵庫県ラグビーフットボール協会	タグラグビー指導
兵庫県立但馬牧場公園	但馬牛の学習、うどん打ち体験指導
照来小学校及び児童 20名	交流活動
福原 陽一郎様(西但馬の自然を考える会)	鳥取砂丘案内
岡坂 遼太様	安全管理スタッフ
谷村 はるみ様	安全管理スタッフ
谷村 祐佳様	安全管理スタッフ
谷村 直人様	安全管理スタッフ
松本 純汰様	安全管理スタッフ
林 とも子様	安全管理スタッフ
小林 直子様	安全管理スタッフ
上島 啓子様	救護スタッフ
加藤 勝義様とご家族 3名	受入家庭
樹岡 正宏様とご家族 7名	受入家庭
中村 勝明様とご家族 2名	受入家庭
中家 剛紀様とご家族 5名	受入家庭
中井 諭様と奥様	受入家庭
松本 浩志様とご家族 3名	受入家庭
谷口 正友様とご家族、ご親族 12名	受入家庭
湯村郵便局	缶バッジ製作機借用
薬師湯	入館料割引
ゆ~らく館	入館料割引
リフレッシュパークゆむら	入館料割引
鳥取大学	ボランティア募集チラシ掲示
新温泉町	施設使用料免除・マイクロバスの利用・職員派遣
兵庫県ラグビーフットボール協会	ランドリーバッグ、クリアファイル
谷村 はるみ様	ジュース、お菓子
新温泉町	後援
新温泉町教育委員会	後援

会計報告 春プログラム

●収支差額 3,578,347 円 ●前期繰越収支差額 28,784,362 円 ●次期繰越収支差額 32,362,709 円



2013 ふくしまキッズ運営全体組織図



年間収支報告

平成25年5月1日から平成26年4月30日まで

ふくしまキッズ実行委員会

収入の部

ふくしまキッズ支援金
66,787,186円

キャンプ参加費
22,208,010円

春キャンプ参加費
5,165,000円

夏キャンプ参加費
10,289,010円

冬キャンプ参加費
6,754,000円

その他収入
7,092円

収入計 89,002,288円

支出の部

プログラム運営費
49,158,295円

旅費
18,805,757円

人件費
1,264,162円

事業費計 69,228,214円

運営管理費
7,144,040円

交通費
3,505,092円

印刷製本費
1,493,953円

消耗品費
1,051,932円

会議費
286,812円

賃借料
293,585円

広告宣伝費
250,000円

通信費
464,974円

保険料
591,982円

雑費
222,130円

支払手数料
43,085円

管理費計 15,347,585円

支出計 84,575,799円

- 収支差額 4,426,489円
- 前期繰越収支差額 27,936,220円
- 次期繰越収支差額 32,362,709円

支援金ご寄付のお願い

福島第一原発事故の被害から子どもたちを守る支援活動を作り出そうとして結成されたのが、「福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会」※です。この実行委員会にNPO、行政機関、市民が参加し、「ふくしまキッズ」を計画しています。

活動にご賛同いただけたる皆様に支援金をご寄付いただき、「ふくしまキッズ」に出来るだけ多くの福島の子どもたちが参加できるようにしていただければと、ご協力をお願いする次第です。どうか全国の皆様のご支援をよろしくお願い致します。

実行委員長 進士 徹
(NPO 法人 あぶくまエヌエスネット 理事長)

●ご支援方法

①お振込み

支援金受付口座

東邦銀行 棚倉支店（店番号 305）

普通口座（口座番号 574540）

ふくしまキッズ実行委員会 実行委員長進士徹
(カナ名義)：フクシマキッズジッコウイインカイ



②クレジット

3,000円〈一口〉 10,000円〈一口〉

50,000円〈一口〉

たくさんの方のご支援をいただいたことをお伝えしたいので、寄付者のお名前を当ホームページに掲載させていただきます

※金額は非公開とします。あらかじめご了承ください

※掲載を希望されない方は、ご自身の名前の前に「18」をつけてお振り込みお願いします

※掲載については数日かかる場合もあります

③Yahoo! ポイント

1ポイント=1円としてご利用いただけます

Yahoo! インターネット募金よりご支援をお願いします

ふくしまキッズ実行委員会事務局（NPO 教育支援協会内）

〒232-0024 神奈川県横浜市南区浦舟町 3-46 9 階

Tel : 045-243-3860 Mail : info@fukushima-kids.org HP : <http://fukushima-kids.org/>